

資料紹介

井上哲次郎「巽軒日記―大正三年―」

村上 こそえ
森本 祥子

翻刻にあたって

明治期から昭和戦前期にかけて哲学者として活躍した、井上哲次郎（一八五五〜一九四四年）の日記『巽軒日記』の大正三年分について引続き紹介したい。なお、凡例については第三二号で述べていることから割愛する

巽軒日記

大正三年（西暦一九一四）「甲寅」 上半期

一月

一日、午前、晴天、拝賀に宮中に赴き、尋いで青山御所に赴き、更に高縄^{たかじま}東宮仮御所に赴く、○午后、浦谷熊吉来賀す、○大島正徳より来状、○来賀者総数百〇五名、○夜、賀状を検するに葉書四百二十二、封書百十八、合計五百四十通、○家族年齢如左、

主人・・・六十歳（安政二年十二月廿五日生）
縫子・・・五十四歳（文久元年五月十二日生）
雪子・・・三十三歳（明治十五年六月十一日生）
清子・・・二十三歳（明治廿五年九月廿九日生）

宣光・・・二十歳（明治廿八年二月八日生）

春枝・・・十七歳（明治三十一年二月十二日生）

正勝・・・十五歳（明治三十三年八月廿四日生）

益之進・・・拾一歳（明治三十七年九月二日生）

高子・・・九歳（明治三十九年十一月廿一日生）

二日、午前、晴天、賀状葉書五十一、封書廿一、合計七十二通来る、○賀状葉書五十通を発送す、○午后、阪谷芳郎より島村謙助の書状を送来る、○賀状葉書三十七、封書十二、合計四十九通来る、○林勃爾来賀す、○賀状封書八通来る、○来賀者四十二名、○賀状八十四通を発送す、○ Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○島村謙助の書状を床次竹二郎に送る、○宣光、吉田宅に赴く、○夜、賀状葉書九、封書五、合計拾四通来る、○引続き Eucken を読む、○此日、賀状総合計葉書九十七、封書四十六、合計百四十三通来る、来賀者を合算すれば、百八十五、

三日、午前、晴天、賀状葉書百〇三、封書二十四、合計百二十七通来る、○賀状葉書六七十通を発送す、○押田清子来る、○賀状葉

書四、封書五来る、○午后、押田三郎、吉田雪子来る、○礼状を富尾木知佳に送る、○賀状葉書二十三、封書二来る、○運動に神田に赴く、○夜、賀状葉書五通来る、○小澤錦十郎より来状、○「尾張名家誌」及び「榎堂遺稿」を読む、○Rudolf Eucken, Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○賀状葉書二十六、封書七来る、○賀状葉書百二十余通を発送す、○此日、来賀者二十七名、○賀状総計葉書百六十一、封書三十八、合計百九十九、之に来賀者を合算すれば二百二十六、

四日、午前、晴天、賀状葉書二十三、封書五来る、○伊藤吉之助来る、○賀状葉書三、封書四来る、○大倉書店より文房具を送来る、○午后、丸尾永助来る、有故不遇、○年始に黒田侯爵邸及び九鬼隆一、大迫尚敏宅に赴く、途上古城貞吉に逢ふ、○賀状葉書約百通を発送す、○夜、辻本卯藏、菓物を携来る、○賀状葉書二十二、封書六を発送す、○書状を辻本卯藏に送る、○賀状葉書七、封書二来る、○此日、賀状葉書総数三十三、封書十一、合計四十四、来賀者七名、○吉田熊次より来状、

五日、午前、晴天、賀状葉書九、封書三来る、○修養団員来賀す、○新年宴会に宮中に赴く、○末松謙澄、山口銳之助、新渡戸稻造、松浦厚等と宮中に会談す、○午后、関宇一郎来賀す、○賀状葉書五来る、○賀状葉書九を発送す、○石川松溪より使者を遣はし、書状を送来る、○遠藤隆吉より盃拾二箇を送来る、○石川景藏来る、○児輩吉田宅に赴く、○Rudolf Eucken, Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○賀状葉書四、封書二来る、○夜、引続き Eucken を読む、○多木悦造より林檎二箱を送来る、○賀状葉書五来る、○賀状葉書六を発送す、○此日、賀状葉書総

計二三、封書五、合計二十八通来る、○来賀者二名、

六日、午前、晴天、賀状葉書七、封書二来る、○帝国学士院より来状、○浦谷熊吉来る、○電話使用料金拾六円五拾銭を郵便局に納む、○賀状葉書二十六を発送す、○縫子、児輩を携へて横浜押田宅に赴く、○書状を多木悦造に送る、○賀状葉書三、封書一来る、○午后、賀状葉書五を発送す、○書状を仁保亀松に送る、○岸田繁次郎、井上成美来る、○Rudolf Eucken, Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○賀状葉書二来る、○賀状葉書一を発送す、○六時頃縫子、児輩と共に帰来る、○夜、書経の周書無逸を読む、○引続き Eucken を読む、○「日本武士道」を読む、○賀状葉書一、封書一来る、○此日、三越より風呂敷を送来る、○七日、午前、晴天、賀状葉書十五、封書六来る、○賀状葉書四を発送す、○書状を岩崎米藏に送る、○書状を井上匡四郎に送る、○年始状を Mrs. E. A. Gordon に送る、○中島徳藏妻来る、○午后、原稿を整理す、○賀状葉書二来る、○賀状葉書二を発送す、○床屋に赴く、○強風、○石川松溪より来状、○賀状葉書三来る、○夜、賀状葉書一来る、○Rudolf Eucken, Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○「日本武士道」を読む、○六日以来の賀状葉書総数三十四、封書総数九、合計四十三来る、○八日、午前、晴天、賀状葉書三、封書一来る、○Rudolf Eucken, Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○島本愛之助来る、○櫻井栄山より来状、○小幡志げより食器苆箱を送来る、○賀状葉書三、封書一来る、○午后、賀状葉書一、封書一来る、○高杉貞一より来状、○山口英爾、姉崎袖子来る、○吉田秀高より来状、○賀状葉書三来る、○引続き Eucken を読む、○夜、

引続きEuckenを読む、○地震、

九日、午前、晴天、賀状葉書二、封書一来る、○今泉辰次郎、石川溪藏、亀井忠一、岩橋遵成来る、○Willy Reichel, An Occults Travelsを送来る、○Rudolf Eucken, Der Kampf um einen geistigen Lebensinhaltを読む、○伊藤吉之助来る、○午后、引続きEuckenを読む、○小澤錦十郎、岡田哲藏より来状、○縫子、櫻井ちか子を訪ふ、○角田松壽、田中義能来る、○土肥鵜軒より「日本詩文書目録」を送来る、○賀状葉書三来る、○書状を土肥慶藏に送る、○夜、興学会に山上御殿に赴く、○賀状葉書一来る、○引続きEuckenを読む、○此日、「現代教育の欠陥の大なるもの」教育実験界に出づ、

十日、午前、晴天、賀状封書二来る、○和田英作、写真師と共に来り、撮影す、○吉田雪子亦来る、○深作安文来る、乃ち昼餐を共にす、○日本硫安会社より来状、○午后、Rudolf Eucken, Der Kampf um einen geistigen Lebensinhaltを読む、○伊藤吉之助来る、○小澤錦十郎より真綿を送来る、○賀状葉書一来る、○製本屋来る、○上田整次来る、○夜、Euckenを読む、○教科書会より来状、○書状を井上友一に送る、○堀謙徳より来状、○一日以来の来賀者総数百八十九名、賀状葉書七百九十一、封書二百三十四、合計一千二十五通来る、之に来賀者を合算すれば一千二百十四、当方より発送せる賀状八百余通、

十一日、午前、晴天、Rudolf Eucken, Der Kampf um einen geistigen Lebensinhaltを読む、○文明協会より「宗教の真諦」(上)及び「人種改良学」を送来る、○永田登茂治より来状、○吉田雪子来談す、○宮本包則、刀劔を携来る、○市政久子より家内に書状を送来る、

○午后、書状を永田登茂治に送る、○間千代、加藤玄智、齋藤精輔来る、○縫子、伊澤修二宅を訪ふ、○運動に神田方面に赴く、○鳩山一郎より来状、○益之進、耳疾を患ふ、○浅倉屋久兵衛より海苔を送来る、○夜、「我。国。基。督。教。の。将。来」基督教世界に出づ、○英国在留友枝高彦、在米国久保良英、在独国補永茂助、及び信州飯沼松枝より賀状来る、○「日本伝治乱要決」及び「日本伝守行矩」を読む、

十二日、午前、晴天、土肥慶藏及び同文館より来状、○講義に大学に赴く、○森良三郎来る、○所得税金三四六一、府税市税金六、九三、合計金四一、五五を郵便局に納む、○午后、岡島誘、武藤儀亮、関宇一郎、浦谷熊吉、井上波野、得能文妻来る、○日置健太郎より来状、○姉崎増子、角田松壽来る、○河本猷藏、金沢長吉、石井満吉、岩波茂雄、角取市助、東亜協会々員となる、○夜、帝国学士院に赴く、○文科大学、峯間信吉、より来状、○教科書会より書類来る、○Sidney L. Gulickより賀状来る、○賀状葉書四来る、○此日、桜島大噴火、

十三日、午前、晴天、勧誘状を佐々木轟哉、渡辺龍聖、廣江萬次郎に送る、○大学に趣きFrau Dr. Anna Berlinerと会見し、之を松本亦太郎に紹介し、且つ哲学科各研究室を示す、○高杉貞一より来状、○不在中森良三郎来る、○「利己主義と理想主義」丁酉倫理に出づ、○午后、書状を高杉貞一及び峯間信吉に送る、○樋口勝美、菓物を携来る、○写真を小幡志げに送る、○教科書会より書類来る、○夜、有馬祐政の送別会に第一学生集会所に赴く、十四日、午前、曇天、学習院に赴く、○大野太衛、ピール半打と「宋明学比較研究」七冊とを携来る、○午后、教授会に山上御殿

に赴く、○小雨、強風、○益之進耳疾未癒、○新渡戸稻造及び五島清太郎と大学に会见す、○米国ハーバード大学に赴くこと、教授会に於て可決せらる、○Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○夜、引続き Eucken を読む、○此日、降灰、蓋し桜島爆発の結果ならん。

十五日、午前、晴天、赤井直好、中村寅松、帰一協会、及び能楽会より来状、Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○坪井九馬三、稻見明精、鞍智芳章より来状、○勉強、○山崎亀太郎より来状、○午后、講義に大学に赴く、○教科書会に文部省に赴く、○文科大学より来状、○「学生宝鑑」壹百部の奥附を大倉書店に付与す、○夜、Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○「吞象楼遺稿」を読む、

十六日、午前、晴天、深作安文、島本愛之助、成瀬仁藏、武藤儀亮、西村長四郎、関宇一郎来る、○在米国姉崎正治より来状、○丸尾永助来る、○大倉書店より「主婦之友」を送来る、○午后、教科書会に文部省に赴く、○不在中齋藤基次郎妻、菓子箱を携来る、○「佐久間象〔山〕及門録」を閲す、夜、杉山直記来る、乃ち談話を速記せしむ、○「日本伝治乱要訣」を読む、

十七日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○文科大学に於て「三国史記」を受取る、○「三国史記」を読む、○京都大学紛擾益々甚し、○在独逸宇井伯壽より賀状来る、○縫子、鯉節屋人扁に赴く、○宮中賢所に於て大礼期日御親告式を行はせられ、御即位式は十一月十日、大嘗会は十一月十三日と定めらる、○午后、引続き「三国史記」を読む、○辻本卯藏より来状、○角田松壽来る、○藤原

正、林義喜、大野太衛、西依一六、東亜協会々員となる、○夜、引続き「三国史記」を読む、○黒田侯爵邸及び宮崎神苑会より来状、○此頃、「詩歌の効用」わか竹に出づ、○杉山直記より速記を送来る、

十八日、午前、半晴、島本愛之助、遠藤隆吉、浦谷熊吉来る、○「三国史記」を読む、○「漢文読本」二千部の奥附を光風館に付与す、○午后、引続き「三国史記」を読む、○「漢文読本」三千部の奥附を光風館に付与す、○速記を訂正す、○吉田豊吉妻、菓物を携来る、○小雨、○夜、速記を訂正す、

十九日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○山口三郎、伊藤蘭嶋の遺著を携へて大学に来る、○影山勝より来状、○文科大学より来状、○午后、甫守謹吾来る、○角田松壽来る、乃ち談話を筆記せしむ、○吉田雪子来談す、○Karl Florenzより来状、○夜、書状を中村寅松に送る、○Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、

二十日、午前、晴天、和田英作来りて肖像を画く、吉田雪子亦来る、○在独逸神林隆淨より絵葉書来る、○午后、浦谷ふみ来る、○Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○弁明書を宗崎勇及び松田金太郎に送る、○夜、Announcements of the Japanese Language School を送来る、○Carnegie Endowment for International Peace を送来る、○研究、○吉田雪子来る、

廿二日、午前、曇天、学習院に赴き、尋いで女学部に赴く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○夜、帰一協会に上野精養軒に赴く、○不在中島本愛之助、角田松壽来る、○帝国学士院及び今井貫一

より来状、○角田松壽より筆記を送来る、○教科書会より書類来る、

廿三日、午前、晴天、在朝鮮島居龍藏より絵葉書来る、○「国史の研究」を送来る、○書状を石川四郎に送る、○縫子を三井銀行に遣はす、

○ Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○午后、角田松壽来る、○講義に大学に赴く、○文科大学々友会より来状、○井上道喜より小包を送来る、○縫子、訪問に中島、樋口及び得能宅に赴く、○「神学評論」を送来る、○麻生正藏来る、○夜、筆記を訂正して之を島本愛之助に送る、○書状を伊藤吉之助に送る、○大野太衛及び中央報徳会より来状、○「三国史記」を読む、○此頃、寛克彦より「西洋哲理」を送来る、

廿四日、午前、晴天、和田英作来りて肖像を画く、吉田雪子亦来る、○浦谷熊吉、関宇一郎、蓮沼門三来る、○午后、教科書会に文部省に赴く、○縫子、齋藤省三宅に赴く、○「東亜の光」口絵解題を印刷所に送る、○夜、大家弘直より来状、○光風館より「漢文教科書」三部を送来る、○「三国史記」を読む、○此頃「師範修身」壹百部及び「農業修身」五拾部の奥附を金港堂に付与す、

廿四日、午前、晴天、坪井九馬三より来状、○講義に大学に赴く、○宅地租金七、五八五、府税市税金二、五四五、合計金一〇、一三〇を郵便局に納む、○「三国史記」を読む、○午后、引続き「三国史記」を読む、○新村喜一郎来る、○縫子、青山の齋藤宅に赴く、○ Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○原口(る)子よりの Mental Fatigue を送来る、○夜、「教界春秋」を草す、

廿五日、午前、曇天、大谷庄治、伊藤吉之助、麻生正藏、原口(る)子来る、○午后、晴天、「教界春秋」を草して之を印刷所に送る、

○小野清秀より来状、○「三国遺事」を読む、○夜、「三国遺事」及び「三国史記」を読む、

廿六日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○不在中阿部東作、原稿を携来る、○印刷所より校正来る、○校正を印刷所に送る、○甫森(ムツ)謹吾より来状、○硫酸会社より来状、○在米国内田曉融より絵葉書来る、○縫子、益之進を携へて賀古医院に赴く、○午后、阿部東作来る、○阿部東作、東亜協会々員となる、○ Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○久保源一より塩辛壺樽を送来る、○夜、印刷所より校正来る、○校正を印刷所に送る、○引続き Eucken を読む、○「三国史記」の「百済本紀」を読む、

廿七日、午前、晴天、大澤眞吉より印刷物を送来る、○和田英作来りて肖像を画く、吉田雪子亦来る、○浦谷熊吉来る、○午后、島本愛之助来る、○在独逸補永茂助、上西半三郎、宇井伯壽より来状、○ Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○夜、哲学会に山上御殿に赴く、木村泰賢、ヘーダント哲学とプラトーンの哲学を比較して之を論ず、○島本愛之助より来状、

廿八日、午前、晴天、学習院に赴き、尋いで女学部に赴く、○島本愛之助より来状、○益之進、風邪を患ふ、熱あり、○午后、 Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○哲学会に会費金壹円を、学友会に金参円を支払ふ、○夜、引続き Eucken を読む、○「三国史記」を読む、

廿九日、午前、晴天、 Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen

Lebensinhalt を読む、○研究、○午后、講義に大学に赴く、○不在中渡邊真来り益之進を診察す、○「三国史記」を読む、○宮本和吉、速記を携来る、○夜、「三国史記」の「百済本紀」を読了す、○此日、「宮本武蔵と武士道」「東洋哲学に出づ、

三十日、午前、晴天、書状を新村喜一郎に送る、○在米国久保良英、吉田熊次、渡辺誠吾、及び在独補永茂助より来信、○西澤葉水来る、○Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○浦谷熊吉来る、○午后、甫守謹吾来る、○引続き Eucken を読む、○米国シカゴ大学教授 Frederick Starr 及び在独逸野上俊夫より年始状来る、○益之進病氣未癒、体温昂進、○夜、「三国史記」を読む、○シドニー、ギューリックより「科学概論」を送来る、○有馬祐政より来状、

卅一日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○不在中森良三郎来る、○益之進、軽快、○午后、書状を久保源一に送る、○Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○松浦伯爵より来状、○井上道喜来る、○運動に小日向方面に赴く、○不在中櫻井智賢来る、○夜、「三国史記」を読む、

二月

一日、午前、晴天、岩橋遵成、松浦一、伊藤吉之助、三卷洋一来る、○成瀬仁藏より「新時代の教育」を送来る、○「三国史記」を読む、○午后、金港堂より奥附三包を送来る、○引続き「三国史記」を読む、○運動に神田方面に出で書籍三部を求めて還る、○桑木嚴翼より来信、○夜、「三国史記」を読む、○風邪の気味あり、

二日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○「三国史記」を読む、○午后、引続き「三国史記」を読む、○武藤儀亮、角田松壽、森良

三郎、来る、○「東亜の光」(九の二)成る、○「総合大学」と単科大学、東亜の光に出づ、○甫守謹吾より書籍と原稿とを送来る、○文科大学より来状、○夜、「三国史記」を読む、○此日、縫子及び益之進共に軽快、

三日、午前、晴天、「三国史記」を読む、○吉田雪子来る、○丸尾永助より来信、○午后、書状を新村喜一郎に送る、○河本重四郎在職廿五年祝賀の為に金五円を送る、○Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○伊藤兼一来る、○「師範修身」一百部、「女子修身」一千部、「中学修身」一千五百九十三部の奥附を金港堂に付与す、○清水孝教来る、○夜、「三国史記」を読む、

四日、午前、晴天、「三国史記」を読む、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○宮内省より招待状来る、○書状を北里闌に送る、○少しく風邪を患ふ、○「三国史記」を読む、○夜、臥瘵、

五日、午前、晴天、臥瘵、○午后、森良三郎来る、○帝国学士院より来状、○松尾中正より原稿を送来る、○夜、文科大学及び日之出生命保険会社より来状、

六日、午前、曇天、甫守謹吾、浦谷熊吉、島本愛之助、佐藤玄斎、吉田雪子来る、○午后、岸田繁次郎、清水孝教来る、○書状を鶴沢總明及び文科大学に送る、○山口英爾来る、○臥瘵、○夜、補永茂助より来信、○此日、「中学修身」一千部及び「女子修身」五百部の奥附を金港堂に付与す、

七日、午前、晴天、岩波茂雄来る、○「三国史記」を読む、○「乃木大将と武士道学派」後援に出づ、○午后、臥瘵、○夜、文科大学及び岩波茂雄より来状、○感冒稍軽快、○女中入代る、

八日、午前、雪、金港堂より小包を送来る、○里村勝次郎より来状、○小谷重、宮本和吉来る、○金港堂より又小包を送来る、○午后、雪益々降る、○「三国史記」を読む、○夜、臥蓐、○此頃在米吉田熊次より Beautiful New York を送来る、○「大日本仏教全書」来る、○松原一義「尚書集解」を携来る、

九日、午前、雪霽る、○「秋屋集拾遺」を送来る、○渡辺眞来診す、○感冒全く癒ゆ、○「三国史記」を読む、○午后、「三国史記」を読む、○清水孝教来る、○書状を毎日新聞社に送る、○夜、「三国史記」を読む、○式部職より案内状来る、○「三国遺事」を読む、十日、午前、晴天、小林文七より来状、○渡部館、伊藤吉之助来る、○「三国遺事」を読む、○女中ふみを日之出生命保険会社に遣はす、○午后、「三国遺事」を読む、○「御即位礼画報」来る、○ Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○齊藤勇来る、○日比谷公園に「国民大会」を開くものありて群集騒擾す、○夜、甫守謹吾の原稿を閲読す、○入夜騒擾益甚、十一日、紀元節、午前、晴天、島本愛之助より来状、○在米国姉崎正治より来信、○「新羅史」を読む、○午后、武藤儀亮、速記を携来る、○若守義孝、渡辺忠吾来る、○補永茂助より Jena'sche Zeitung を送来る、○奥附二包を金港堂に付与す、○文明協会より「宗教の真諦」及び「国民共済策」を送来る、○ Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○夜、引続き Eucken を読む、○井口在屋より来状、十二日、午前、晴天、時局に関する談話、東朝に出づ、○小包を櫻井栄山に送る、○ Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○午后、引続き Eucken を読む、

○講義に大学に赴く、○不在中「穂積八束博士論文集」を送来る、○齋藤彦脩及び築紫史談會より来状、○「女子修身」三千二百部及び「中学修身」五千部の奥附を金港堂に付与す、○「新羅史」を読む、○夜、「新羅史」を読む、○此日、市民又騒擾、

十三日、午前、晴天、鼎義暁より来状、○島本愛之助、甫守謹吾来る、○「新羅史」及び Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○紹慶密應、前田榎樹、東亜協会々員となる、○午后、清水孝教来る、○引続き Eucken を読む、○運動に本郷及び下谷方面に出づ、○夜、「中学修身」三百部の奥附を文学社に付与す、○夜、「新羅史」及び「神代史の新しき研究」を読む、

十四日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○午后、田代義徳を大学院に訪ふ、○夜、日本学会に赴く、三上参次、萩野由之の講演あり、出席者約二十名、○不在中角田松壽来る、○此日、「大学一覽」を大学より受取る、

十五日、午前、晴天、三卷洋一來る、乃ち談話を筆記せしむ、○森良三郎、田中義能、宮本包則来る、○浅倉屋より小包を送来る、○午后、浦谷熊吉、白井成允来る、○角田松壽来る、乃ち談話を筆記せしむ、○「神代の研究」を読む、○夜、「神代の研究」を読む、十六日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○白井成允、大学に来訪す、○「櫛齋雜攷」を読む、○「櫛齋雜攷」を読む、○浅倉屋より「藤樹先生手翰抄」を送来る、○曾根松太郎、甫守謹吾、島本愛之助来る、○ Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○人道教会より来状、○三卷洋一より原稿を送来る、○夜、海老沼静作来る、乃ち談話を速記せしむ、○速

記を訂正す、○此日、工学博士中野初子逝く、享年五十六、○子爵青木周藏逝く、享年七十一、
 十七日、午前、晴天、和田英作来る、○製本屋亦来る、○午后、速記を訂正す、○阪崎坦来る、乃ち談話を筆記せしむ、○三並良、角田松壽来る、○有馬祐政より来状、○夜、速記を訂正す、○原稿を速達にて角田松壽に送る、○原稿を文章研究録編輯所に送る、○文科大学及び婦一協会より来状、○角田松壽の筆記を訂正す、十八日、午前、晴天、中野初子宅に赴き、之を弔ふ、○学習院に赴き、尋いで女学部へ赴く、○電車中、坂本謹吾と会見す、○北里闌、奥藤謹治、加藤玄智より来信、○日比野寛より「織田信長論」を送来る、加藤玄智より東山湖の写真を送来る、○「女子修身」一千六百部及び「中学修身」二千三百部の奥附を金港堂に付与す、○原稿を速達にて角田松壽に送る、○午后、曇天、帝國学士院より来状、○桑木或雄より「熱力学の方法」を送来る、○Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○夜、引続き、Eucken を読む、○安田勝藏来る、乃ち談話を速記せしむ、○書状を渡辺義夫に送る、○谷口豊五郎の訃報来る、○此日、岡鹿門逝く、享年八十二、
 十九日、午前、雪霏々、石川松溪来る、○書状を阪崎坦及び川西政一に送る、○女中ふみを三井銀行及び第一銀行支店に遣はす、○押田清子来る、○疏安会社の為に金六拾円を第一銀行に払込む、○Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○曾根松太郎より原稿を送来る、○講義に大学に赴く、○速記を訂正す、○「神代の研究」を読む、○夜、中村寅松より来状、○Eucken を読む、○「日本文明研究の必要」及び「旅行

瑣談」明治聖徳記念学会紀要に出づ、○山口英爾来る、
 二十日、午前、曇天、坂崎坦より原稿を送来る、○奥田政市より来状、○石川松溪、森良三郎来る、○巢鴨宮の地所中五百坪丈壹坪金拾七円の割合にて豊田龍太郎に売渡す事に決定す、○Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○東洋新報に大正の人物として人物月且出づ、○午后、鶴岡五郎(日暹堂)来る、○坂崎坦の筆記を訂正す、○小澤錦十郎より「家族道徳及其実行方案」を送来る、○引続きEucken を読む、○「女子修身」五百部の奥附を金港堂に付与す、○川上淳一郎、市島謙吉の紹介状を携来る、○井上鑲来る、有故不遇、○原稿を速達にて坂崎坦に送る、○夜、哲学会に山上御殿に赴く、○補永茂助より来信、○「神代の研究」を読む、
 廿一日、午前、曇天、武谷水城、小澤錦十郎、大野太衛、淺野利三郎、門野幾之進より来状、○平沼淑郎父の訃報来る、○印刷所より「東亜の光」口絵を送来る、○講義に大学に赴く、○午后、晴天、「東亜の光」口絵解題を印刷所に送る、○時事新報社の天尾公一来る、○「教界春秋」を草す、○縫子、吉田宅に赴く、○夜、「教界春秋」を印刷所に送る、○「神代の研究」を読む、
 廿二日、午前、曇天、在米国姉崎正治より印刷物を送来る、○森良三郎来る、○Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○午后、小雨、木村泰賢来る、○引続きEucken を読む、○Schopenhauer-Gesellschaft より来状、○「神代の研究」を読む、○夜、「神代の研究」を読む、
 廿三日、午前、雪、講義に大学に赴く、○蓮沼門三来る、○弘道館より来状、○午后、島本愛之助、深作安文、浦谷熊吉、甫守謹吾

及び今泉某来る、「宮本武蔵」と「武士道」武の世界に出づ、○書状を谷口敬吉及び平沼淑郎に送る、○吉田雪子来談す、○夜、石川松溪、大野松太郎来る、○石川松溪をして談話を速記せしむ、○雪霽、

廿四日、午前、晴天、三上義夫及び文科大学より来状、○オイケン
の哲学に関する談話、東朝に出づ、○「神代の研究」を読む、○
和田英作来りて肖像を画く、○午后、浦谷熊吉来る、○印刷所よ
り校正来る、○校正を印刷に送る、○野村正眼及び小浦国継より
来状、○黒田家より鶴の子餅と鯉節とを送来る、○Ueberweg,
Grundriss der Geschichte der Philosophie を読む、○夜、帰一協
会に上野精養軒に赴く、○不在中森良三郎外名来る、○東京社
より来状、○時事新報社より写真を返来る、

廿五日、午前、晴天、オイケンに関する談話、東朝に出づ、○学習
院に赴き、尋いで女学部へ赴く、○野尻精一と女学部に見えず、
○午后、教授会に山上御殿に赴く、○帰途白石実三と会见す、○
不在中大学の使者来る、乃ち之に東北及桜島罹災民救済費金五円
を付与す、○「勅語教本」三百部及び「師範修身」一千六百五十
部の奥附を晩成処に付与す、○小野隆助及び古川勝隆より来
状、○夜、坂崎坦来る、○Rudolf Eucken, Der Kampf um einen
geistigen Lebensinhalt を読む、

廿六日、午前、曇天、三井銀行に赴く、○Rudolf Eucken, Der
Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○森良三郎来る、
○午后、講義に大学に赴く、○瀆本信一より来状、○中村寅松よ
り電報来る、○電報を中村寅松に送る、○夜、上田整次の歓迎会
に山上御殿に赴く、○「中学修身」四百部の奥附を文学社に付与

す、○井上匡四郎、木村泰賢及びGordonより来状、○「神代史
の新しい研究」を読む、

廿七日、午前、晴天、宮本包則来る、○Rudolf Eucken, Der Kampf
um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○午后、すみれ会を開
く、来会者七人、○吉田修夫来る、○文部属福士末之助、子爵岡
部長職及び田所美治の書状を携来る、○夜、「神代史の新しい研究」
を読む、○此日、尾原亮太郎来る、○角田松壽来る、

廿八日、午前、晴天、日置健太郎、丸善等より来状、○講義に大学
に赴く、○午后、坂本無憂、北原種忠の書状を携来る、○藤塚鄰
来る、○河田豊、福島元助来る、乃ち談話を筆記せしむ、○岩元
栄次郎より来状、○夜、書状を岩元栄次郎及び人道教会本部に送
る、○大野松太郎より来状、○書状を有馬祐政、淺野利三郎及び
新村喜一郎に送る、○「異称日本伝」を読む、

三月

一日、午前、晴天、石川松溪より原稿を送来る、○石川松溪、森良
三郎来る、○写真師来りて書齋に於て写真を取る、○「異称日本伝」
を読む、○高楠順次郎より礼状来る、○午后、「異称日本伝」を読む、
○「師範修身」一千〇五十部の奥附を晩成処に付与す、○丁西倫
理会に学士会に赴く、○夜、「異称日本伝」を読む、

二日、午前、曇天、講義に大学に赴く、○不在中福岡県の柔道家某
来る、○午后、武藤儀亮「東亜の光」を携来る、○「東亜の光」
(九の三)成る、○「オイケン」の哲学と我々の現状」東亜の光に
出づ、○丸善より洋書二十八点を送来る、○「ニコニコ」雑誌記
者桑門藻太郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○浦谷熊吉来る、○
文章研究録編輯所より来状、○尾上八郎妻、贈物を携来る、○

Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む。○夜、石川松溪外巻名来る、乃ち談話を速記せしむ。○「中学修身」三百部の奥附を文学社に付与す。○山岸光宣より来状、○夜半、雷雨、

三日、午前、曇天、後少しく霽る、○帝国学士院より来状、○ Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む。○午后、晴天、引続き Eucken を読む。○皇道会員来る、有し故不遇、○夜、引続き Eucken を読む。○ Elie Metchnikoff. The Prolongation of Life を読む。○岩田僊太郎より来状、

四日、午前、晴天、学習院に赴く。○瀧精一來る。○島本愛之助より来状、○午后、土田誠一來る。○ Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む。○書状を晚成処に送る。○ The Asiatic Society より書状と Constitution and By-laws を送来る。○道上武市より来状。○「国民道徳概論」三百部の奥附を三省堂に付与す。○中島徳藏より使者来る。○運動に江戸川方面に出づ。○石川松溪より原稿を送来る。○製本屋来る。○夜、引続き Eucken を読む。○ Elie Metchnikoff. The Prolongation of Life を読む。

五日、午前、半晴、金拾円の為換を The Asiatic Society of Japan に三菱銀行に送る。○吉田雪子、森良三郎来る。○女中ふみを東海銀行に遣はず。○ Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む。○「成唯識論」を読む。○午后、「成唯識論」を読む。○講義に大学に赴く。○途上岩波茂雄及び岩橋遵成に逢ふ。○正岡猶一及び人事興信所より来状。○柴田寅一郎、茶器を携来る。○帝国学士院より来状。○夜、「成唯識論」を読む。

○ Elie Metchnikoff. The Prolongation of Life を読む。

六日、午前、晴天、縫子、横浜押田三郎宅に赴く。○和田英作来て肖像を画く。○九鬼周造、角田松壽、吉田雪子、島本愛之助、吉田修夫、田中芳谷来る。○「成唯識論」及び「異称日本伝」を読む。○午后、「中学漢文」六千部の奥附を光風館に付与す。○白石実三来る。乃ち談話を筆記せしむ。○金拾麻克を Schopenhauer-Gesellschaft に Deutsche Bank に送る。○原稿を正岡猶一に南米社に送る。○宮田榮来る。乃ち「中興鑑言」の序を付与す。○前田直延来る。有故不遇。○鶴岡五郎来る。○「異称日本伝」を読む。○此日、奥田義人は文相を辞し、法相専任となり、大岡育造、文相となる。

七日、午前、暴風雨、後霽る。○白石実三より筆記を送来る。○「異称日本伝」を読む。○講義に大学に赴く。○金港堂より奥附の小包を送来る。○午后、晴天、山田源一郎来る。○ Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む。○礪川小学校失火、近隣騷擾、火事見舞来客多し。○「異称日本伝」を読む。○浅倉屋より書目を送来る。○夜、引続き Eucken を読む。○ Elie Metchnikoff. The Prolongation of Life を読む。

八日、午前、晴天、火事見舞の礼状約二十通を發送す。○森良三郎、石川松溪、岩橋遵成、秋田洪範、前田直延、古莊嘉門、井出三郎、得能文来る。○ Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む。○「大日本仏教全書」を送来る。○巢鴨村役場より来状。○午后、「後漢書東夷伝」を読む。○「中学修身」二百部、「女子修身」八百部及び「師範修身」二百部の奥附を金港堂に付与す。○研究、○夜、研究、○火事見舞の礼状数通を發

送す、

九日、午前、雨天、講義に大学に赴く、○小林文七より来状、○午后、曇天、中谷徳太郎、甫守謹吾、吉田雪子来る、○秋田洪範来る、乃ち談話を筆記せしむ、○Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○多田房之輔より来状、○「教育者と政治」教育界に出づ、○夜、雨天、Elie Metchnikoff. The Prolongation of Life を読む、○「中学修身」三百部の奥附を文学社に付与す、○石川松溪、齋藤彦脩及び John Struthers より来状、

十日、午前、曇天、図書会社より「香亭蔵草」を送来る、○吉田雪子来りて肖像を画く、○Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○午后、書状を齋藤彦脩に送る、○平塚雌鳩、岸田時夫来る、○日本弘道会の評議員となる、○浦谷熊吉来る、○引続き Eucken を読む、○縫子、井上成美宅に神田に赴く、○Elie Metchnikoff. The Prolongation of Life を読む、○夜、Elie Metchnikoff. The Prolongation of Life を読む、

十一日、午前、曇天、平沼淑郎、平沼騏一郎、大家弘直より来状、○山崎亀太郎来る、○学習院に赴き、尋いで女学部に到る、○「朱子哲学」五十部の奥附を富山房に付与す、○午后、大野太衛より来状、○報徳会より「二宮尊徳遺稿」を送来る、○小林正策より書状と「兎峯遺稿」を送来る、○Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○二宮尊親より来状、○夜、引続き Eucken を読む、○Elie Metchnikoff. The Prolongation of Life を読む、

十二日、午前、雨天、芳賀矢一より来状、○Elie Metchnikoff. The

Prolongation of Life を読む、○所得税金参拾四円六拾貳銭、府税市税金六円九拾参銭、合計金四拾壹円五拾五銭を郵便局に納む、○浅倉屋より類聚国史、挙要約会、論語々由、淇園詩集を送来る、○午后、講義に大学に赴く、○「中学修身」一千部の奥附を文学社に付与す、○引続き Metchnikoff を読む、○日本弘道会より筆記を送来る、○夜、引続き Metchnikoff を読む、○弘道会の速記を訂正す、

十三日、午前、晴天、在独逸補永茂助より印刷物を送来る、○縫子、井上成美宅に赴く、○「異称日本伝」を読む、○大家弘直来る、○金港堂より奥附を送来る、○Elie Metchnikoff. The Prolongation of Life を読む、○新村喜一郎来る、○午后、日本弘道会より来状、○引続き Metchnikoff を読む、○「女子修身」三千四百部及び「中学修身」四千八百部の奥附を金港堂に付与す、○山口英爾をして佐村八郎の葬式に会せしむ、○「成唯識論」を読む、○角田松壽来る、○高橋里美、「物質と記憶」を携来る、○夜、哲学科懇親会に山上御殿に赴く、来会者約五十余名、○弘道館及び花田仲之助より来状、

十四日、午前、雨天、講義に大学に赴く、○三上義夫より A History of Japanese Mathematics を受取る、○午后、書状を山崎亀太郎に送る、○島本、武藤儀亮来る、○原稿を日本弘道会に送る、○「成唯識論」を読む、○Rudolf Eucken. Der Kampf um einen geistigen Lebensinhalt を読む、○夜、速記者某来る、乃ち談話を速記せしむ、○Elie Metchnikoff. The Prolongation of Life を読む、○此頃、西田快忍、関隆盛(二人共文学士)東亜協会々員となる、

十五日、午前、曇天、石川松溪、中島泰藏来る、○書状を二宮尊親及び武藤儀亮に送る、○長谷場純孝逝く、○午后、押田三郎、瀆本信一來る、○速記者山田勇来る、乃ち談話を速記せしむ、○角田松壽来る、乃ち談話を筆記せしむ、○史学会より来状、○書状を小林正策に送る、○夜、研究、○永井壯吉（荷風）より「来青閣集」を送来る、○石川松溪及び婦一協会より来状、○正岡猶一より来状、○此日、前田直延来る、有故不遇、

十六日、午前、晴天、尚武社より「日本軍の暗黒面」を送来る、○講義に大学に赴く、○小尾範治、東亜協会々員となる、○森良三郎来る、○「日本軍の暗黒面」を読む、○島本愛之助より報告を送来る、○午后、櫻井ちか子、島本愛之助来る、○衣笠醇来る、乃ち談話を筆記せしむ、○中谷徳太郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○Elie Metchnikoff, The Prolongation of Lifeを読む、○夜、伊藤吉之助来る、○引続きMetchnikoffを読む、○速記を訂正す、十七日、午前、晴天、文科大学より来状、○角田松壽より筆記を送来る、○筆記及び速記を訂正す、○大町美種来る、○和田英作来りて肖像を画く、○正岡猶一より写真を返来る、○午后、書状を大森金五郎に送る、○速記を訂正す、○Elie Metchnikoff, The Prolongation of Lifeを読む、○「商業、道徳論」実業に出づ、○浦谷熊吉、角田松壽来る、○原稿を角田松壽に送る、○「実業修身」四百部の奥附を六盟館に付与す、○夜、神道談話会に山上御殿に赴く、

十八日、午前、晴天、修養団本部及び新日本編輯局等より来状、○「日本軍の暗黒面」を読む、○学習院女学部に赴く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○塚原政次に山上御殿に会见す、○小林正策

より来状、○速記を訂正す、○北村澤吉来る、○夜、原稿を中谷徳太郎に送る、○帝国図書普及会より使者来る、乃ち之に原稿を付与す、○原稿を白石實三に送る、○書状を石川松溪に送る、○願書を帝国学士院に送る、○速記を訂正す、

十九日、午前、晴天、森良三郎来る、○Elie Metchnikoff, The Prolongation of Lifeを読む、○強風、○午后、引続きMetchnikoffを読む、○「中学修身」四百部の奥附を金港堂に付与す、○加藤駒二来る、○文科大学より来状、○速記を訂正す、○夜、引続き速記を訂正す、○書状を文科大学に送る、○弘道館より速記を送来る、○弘道館の速記を訂正す、○此日、瀆本信一より鯉節と鶴子餅とを送来る、

二十日、午前、晴天、印刷所より「東亜の光」口絵を送来る、○口絵解題を印刷所に送る、○速記を訂正す、○伊藤吉之助、坂本謹吾、深作安文、島本愛之助、今岡信一良来る、○丸善の使者来る、乃ち之に書籍數種を付与す、○丸善より洋書拾九部を買取る、○午后、速記を訂正す、○鈴木弘来る、○夜、森良三郎、豊田龍太郎外名来る、○巢鴨の地所五百坪を豊田龍太郎に売渡す、登記手續了る、○弘道館の使者来る、乃ち之に原稿を付与す、○吉田雪子来る、○石川松溪の速記を訂正し了る、

廿一日、春季皇靈際、午前、晴天、弘道館より「精神生活の哲学」を送来る、○書状を山崎亀太郎及び鶴澤總明に送る、○大野松太郎の使者、書状を携来る、乃ち之に原稿を付与す、○Elie Metchnikoff, The Prolongation of Lifeを読む、○「師範修身」五百部の奥附を晩成処に付与す、○帝国学士院より来状、○文明協会より「北極」と「現代の墮落」とを送来る、○午后、女子音

楽学校卒業式に臨み、一場の演説をなす、○春陽堂より「現代の不良青年」を送来る、○和田六次郎来る、○不在中製本屋来る、○暁星学校より来状、○夜、帰一協会に上野精養軒に赴く、
 廿二日、午前、晴天、校正を印刷所に送る、○正勝益之進を拉し、御殿場に赴く、○午后、東山地所を覧る、○影山勝、山崎亀太郎等と富士屋に会談す、○夜、十時帰宅、○不在中伊藤兼一、山内計作、石松紫陽、浦谷熊吉来る、○在英国吉田熊次より来状、
 廿三日、午前、半晴、森良三郎来る、○井上末より書状と小包とを送来る、○三井銀行に赴く、○正勝益之進、大正博覧会に赴く、
 ○五島清太郎及び福地新助より来状、○和田英作より額縁を送来る、○ハーブード大学日本学講座担任の事、先方に於て承諾の旨、通知し来れりとの報あり、○午后、曇天、山田源一郎より鯉節と菓子箱とを送来る、○床屋に赴く、○不在中製本屋来る、○夜、雨天、川西政之、児童二人を携来る、○石田収蔵より来状、
 二十四日、午前、雨天、「教界春秋」を草す、○伊藤吉之助、高津鍬三郎来る、○金参円の為換を勤続議員表彰会に送る、○真綿を芳賀矢一に送る、○午后、弘道館より校正を送来る、○校正を弘道館に送る、○「教界春秋」を草し了りて之を印刷所に送る、○雨霽る、○製本屋来る、○夜、北村澤吉の送別会に山上御殿に赴く、○「中学修身」五百部及び「実業修身」二百部の奥附を文学社に付与す、○池尻喜三郎、松浦伯爵及び東洋大学より来状、
 二十五日、午前、曇天、森良三郎、大金と共に来る、○島本愛之助、角田松壽来る、○書状を加藤弘之及び帝国学士院に送る、○女中ふみを大学に遣はす、○勤続議員表彰会より来状、○午后、女中ふみを文部省に遣はす、○Elie Metchnikoff, The Prolongation

of Lifeを読む、○関宇一郎来る、○「中学修身」九百部及び「女子修身」九百部の奥附を金港堂に付与す、○文科大学より論文を送来る、○夜、哲学会に山上御殿に赴く、○「実業修身」二百部の奥附を文学社に付与す、○此日、巢鴨家屋二戸を建築することを確認す、○巢鴨の地所一百坪を櫻村春吉に貸付することを許す、但し四月より、○夜半雷雨、
 二十六日、午前、雨天、正勝、横浜押田宅に赴く、○女中ふみを文部省に遣はす、○Elie Metchnikoff, The Prolongation of Lifeを読む、○午后、曇天、引続きMetchnikoffを読む、○書状を瀧本誠一に送る、○大島正徳来る、○芳賀矢一長女及び池永四郎結婚の披露会に帝国ホテルに赴く、○夜、八時頃帰宅、○不在中大清来る、○皇道会及び東大寺等より来る、○吉田雪子来る、○此日、帝国議会閉会、
 廿七日、午前、曇天、川上淳一郎より来状、○坂本謹吾、片山清太郎、前田直延、石松紫陽、浦谷熊吉、峯間信吉、山内計作来る、○午后、縫子、春枝、高子を拉して買物に外出す、○深作安文宅より魚を送来る、○「中学修身」五百部及び「女子修身」九拾部の奥附を金港堂に付与す、○Elie Metchnikoff, The Prolongation of Lifeを読了す、○皇太后宮御不例の報あり、○書状を山崎亀太郎に送る、○夜、Elie Metchnikoff, The Prolongation of Lifeを読む、○「使徒行伝」を読む、
 廿八日、午前、晴天、高津鍬三郎より来状、○「使徒行伝」及び「羅馬書」を読む、○和田英作来りて肖像を画く、○小石川郵便局より来状、○在米国吉田熊次より鉦山画帖を送来る、○国書刊行会より第三期刊行物二十二冊を送来る、○午后、宮本和吉

来る、○ Schopenhauer-Gesellschaft より Drittes Jahrbuch der Schopenhauer-Gesellschaft 1914 を送来る、○ 文科大学より使者来る、○ 「羅馬書」を読む、○ 運動に江戸川方面に出づ、○ 縫子、すみれ会に吉田宅に赴く、○ 夜、「羅馬書」を読む、○ 帝国図書普及会より写真を送来る、○ 山口英爾来る、

廿九日、午前、晴天、穂積陳重、Ancestor-Worship and Japanese Law を携来る、○ 大成中学の卒業式に莅み、一場の演説をなす、○ 平野他喜松と会見す、○ 不在中宮本兼則来る、○ 縫子、師範学校附属小学校に赴く、○ 井上道喜より菓物壺籠を送来る、○ 午后、松原一義及び宮本兼則来る、○ 「女子修身」壺百部及び「倫理教科書」五拾部の奥附を金港堂に付与す、○ 角田松壽「東亜の光」(九の四)拾冊を携来る、井上道喜来る、乃ち共に晚餐を喫す、○ 夜、井上道喜及び妻子と共に上野博覧会附近に散歩して帰る、○ 此日、吉田秀高より来状、

三十日、午前、曇天、国書刊行会より書籍拾四冊を送来る、○ 小雨、○ 「羅馬書」を読む、○ 吉田雪子来る、○ 井上道喜と昼餐を共にす、○ 午后、雨天、「羅馬書」を読む、○ 縫子、井上道喜及び吉田雪子と共に帝国劇場に赴く、○ 山口英爾来る、○ 夜、「羅馬書」を読了す、○ Elie Metchnikoff, The Nature of Man を読む、

卅一日、午前、晴天、森良三郎、武藤儀亮来る、○ 和田英作、肖像を画く、○ 島地大等、鉄瓶を携来る、○ 午后、浦谷熊吉来る、○ 「哥林多前書」を読む、○ Elie Metchnikoff, The Nature of Man を読む、○ 「中学修身」四百部の奥附を文学社に付与す、○ 「中学修身」一千部の奥附を金港堂に付与す、○ 夜、引続き、「The Nature of Man」を読む、○ 此頃、春江雙葉高等女学校を卒業し、

・正・勝・中・学・二・年・に・進・級・し・、益・之・進・、尋・常・小・学・四・年・に・進・級・し・、高・子・尋・常・二・年・に・進・級・す・、

四月

一日、午前、晴天、Elie Metchnikoff, The Nature of Man を読む、○ 巢鴨に赴き、地所を検査す、○ 「中学修身」八百部の奥附を金港堂に付与す、○ 午后、鈴木弘来る、○ 縫子、高子と共に博覧会に赴き、春枝、益之進と共に押田宅に横浜に赴く、○ 引続き「The Nature of Man」を読む、○ 「哥林多前書」を読む、○ 夜、東大文科及び京大文科の懇親会に神田川に赴く、○ 「三方面より観たる長寿法」真人に出づ、

二日、午前、曇天、東敬治来る、○ The Religious Education Association を送来る、○ 文科大学及び帝国学士院より使者来る、○ Elie Metchnikoff, The Nature of Man を読む、○ 午后「女子修身」壺百部及び「中学修身」五拾部の奥附を金港堂に付与す、○ 引続き「The Nature of Man」を読む、○ 四時半頃春枝、益之進と共に横浜より帰来る、○ 夜、鶴岡五郎より来状、○ 「黒住教に対する所感」経世雜誌に出づ、○ 引続き「The Nature of Man」を読む、

三日、神武天皇祭、午前、曇天、木澤孚及び蓮沼門三より来状、○ 白井成允、松下專吉、岡村鉦太郎、片山清太郎、白石実三来る、○ 祝電を福島県河沼郡群岡村修養団支部に送る、○ 縫子、姉崎宅に赴く、○ 「哥林多前書」を読む、○ 午后、海軍教授川井田藤助来る、○ 「哥林多前書」を読む、○ 加藤玄智より速記を送来る、○ 松井百太郎、若木貞一來る、○ 「婦人の特質」弘道に出づ、○ 夜、福田源三郎来る、○ 「哥林多前書」を読む、○ 「The Nature of Man」を読む、○ 夜半、冷気甚し、

四日、午前、雪霏々、桜花爛漫の光景と相俟ちて奇観を呈す、○帰一協会より来状、○高津敏三郎、御礼の為に來る、○The Nature of Manを読む、○太宰府より太宰府神社の写真を送來る、○「哥林多前書」を読む、○午后、雪降ること益々甚し、○「哥林多前書」を読了る、○The Nature of Manを読む、○夜、The Nature of Manを読む、○「現代の不良青年」を読む、○押田清子より絵葉書を送來る、○小林正策より「淺見綱齋祭典記事」を送來る、

五日、午前、晴天、森良三郎來る、○The Nature of Manを読む、○帝国学士院より来状、○午后、正勝、益之進を拉して博覽会に赴く、○縫子、雪子、春枝、高子皆博覽会に赴く、○不在中蠣瀬彦藏來る、○「現代の不良青年」を読む、○「小学教育に於ける新時代の要求」小学研究に出づ、○雨、○夜、引き続き「現代の不良青年」を読む、○書状を帝国学士院に送る、○The Nature of Manを読む、○「小学教員と政治思想」小学校に出づ、○此日、武藤儀亮來る、○巢鴨棟上げ、

六日、午前、晴天、入澤涼月より来状、○福田青山より「神人」を送來る、○Elie Metchnikoff, The Nature of Manを読む、○三井銀行に赴く、○不在中角田松壽來る、○午后、半晴、The Nature of Manを読む、○「女子修身」卷百五十部の奥附を金港堂に付与す、○有馬家修史所より「真木和泉守遺文」を送來る、○甫守謹吾來る、○縫子、濱本信一宅に赴く、○Huxley, Man's Place in Natureを読む、○夜、天理教管長中山新治郎より案内來る、○Huxley, Man's Place in Natureを読む、○「現代の不良青年」を読む、

七日、午前、雨天、島本愛之助より来状、○「文部大臣論」新日本に出づ、○雨歇んで雲未だ霽れず、○Metchnikoff, The Nature of Manを読む、○「現代の不良青年」を読む、○午后、雨天、宮坂喆宗來る、○書状を島本愛之助及び有馬修史所に送る、○The Nature of Manを読む、○永樂堂書店より「神道教祖伝」を送來る、○荻野伸三郎より来状、○「女子修身」六百二十部の奥附を金港堂に付与す、○「神道教祖伝」を読む、○夜、太田峯三郎、六日を以て逝去すとの報あり、享年五十二、○「神道教祖伝」を読む、○Huxley, Man's Place in Natureを読む、○風雨、

八日、午前、半晴、大野太衛より来状、○森良三郎、林勃爾來る、○在職廿五年通知人名の取調をなす、○電話使用料金拾六円五拾銭を郵便局に納む、○Huxley, Man's Place in Natureを読む、○電、後雷雨、○太田峰三郎の計報來る、○修養団群岡支部より來状、○午后、晴天、Huxley, Man's Place in Natureを読む、○書状と東亜協會名簿を大島正徳に送る、○宮内省より来状、○角田松壽來る、○「中学修身」五十部の奥附を金港堂に付与す、○The Nature of Manを読む、○夜、The Nature of Manを読む、○「神道教祖伝」を読む、○文部省の使者、書類を携來る、

九日、午前、晴天、正岡直一よりJapan's Message to Americaを送來る、○Religion and Education in Japanと題せる訳文Japan's Message to Americaに出づ、○The Nature of Manを読む、○大成中学より商品券を送來る、○皇太后陛下御重患、○天皇皇后両陛下沼津行幸、○伯爵渡辺千秋、宮内大臣を罷め、男爵波多野敬直、宮内大臣に任ぜらる、○「神道教祖伝」を読む、○杉浦鋼太郎、木村正辞養子と共に來訪す、○午后、天機奉伺の

為に宮中に参内し、尋いで青山御所に赴く、○強風、砂塵を捲いて起る、○教育實際社及び黒住経世雜誌社より来状、○「神道教祖伝」を読む、○The Nature of Manを読む、○宮内省より来状、○夜、松原一義来る、○史学会より「外国人名地名」を送来る、○The Nature of Manを読む、○此日、皇太后陛下「下」崩御、御名は美子、御父君は左大臣従一位一條忠香公、嘉永三年の御降誕、宝算六十五、

十日、午前、晴天、黒住教より「教書」第二輯を送来る、○The Nature of Manを読了る、○松下專吉来る、○「神道教祖伝」を読む、○島本愛之助より来状、○午后、書齋の整理をなす、○深作安文、島本愛之助と共に来る、○「女子修身」五百七十部の奥附を金港堂に付与す、○Huxley, Man's Place in Natureを読む、○夜、「哥林多後書」を読む、○Huxley, Man's Place in Natureを読む、○此日、山口英爾をして太田峯三郎の葬式に会せしむ、○從三位に叙せらる、

十一日、午前、晴天、零時四十分、皇太后宮還御、○二時十分崩御、実は一日前沼津にて崩御、向一ヶ年御大喪となる、○枝元長夫より来状、○書齋の整理をなす、○強風、○午后、天機奉伺の為、宮中に参内す、○書状を速達にて島本愛之助に送る、○諸雜誌の整理をなす、○夜、枝本長夫来る、乃ち談話を筆記せしむ、○「哥林多後書」を読む、○此日、井上淳より祝物を送来る、○夜半、近火為に警戒す、

十二日、午前、晴天、秦政二郎及び島本愛之助より来状、○瀧本誠一来る、○小山鞆繪より「バター」壱箱を送来る、○水道橋稅務署より来状、○在大島元村小山鞆繪より絵葉書来る、○午后、本

間和一及び橋本元治来る、○書状を吉田静致及び黒住教経世雜誌社に送る、○書状を秦政二郎及び小山鞆繪に送る、○折田彦市より来状、○宮坂詰宗外婦人二名及び角田松壽来る、○婦人画報社より使者筆記を携来る、乃ち筆記を訂正して之を使者に付与す、○書状を山崎亀太郎に送る、○「女子修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○「哥林多後書」を読む、○夜、「哥林多後書」を読了り、「加拉太書」を読む、

十三日、午前、曇天、「加拉太書」を読了る、○「大日本仏教全書」を送来る、○午后、堀謙徳及渡辺謙之助来る、○吉田静致及び留岡幸助より来状、○諸雜誌の取調をなす、○片山清太郎来談す、○夜、小雨、峰間信吉より「中学漢文」十七校に採用せられたることを報道し来る、○Sidney L. Gulickより来状、○Huxley, Man's Place in Natureを読む、

十四日、午前、雨天、堀謙徳来る、○「慷慨家列伝」を読む、○今岡信一良来る、乃ち談話を筆記せしむ、○吐鳳堂より「神経学雜誌」を壱包送来る、○午后、晴天、浦谷熊吉来談す、○森江支店より「仏弟子伝」を送来る、○山口英爾来る、○「釈迦牟尼伝」を読む、○角田松壽来る、○大倉書店より印税を送来る、○「仏弟子伝」を読む、○「女子修身」五百部及び「中学修身」三百部の奥附を金港堂に付与す、○縫子、正勝と須田眼科医院に赴く、○大日本図書会社より心理研究壱包を送来る、○帝国学士院より来状、○夜、「日本軍の暗黒面」を読む、○孔子祭典会及び大野太衛より来状、○英爾来宿す、

十五日、午前、晴天、学習院に赴く、○英爾去る、○武藤儀亮来る、○蓮沼門三より来状、○「日本軍の暗黒面」を読む、○隣地事件

に付而裁判あり、○午后、辻本卯藏及び吉田雪子来る、○島本愛之助、書籍拾有余冊を携来る、○「養生訓」を読む、○同文館より来状、○運動に小日向方面に出づ、○松本文三郎より来状、○夜、文科大学より辞令書を送来る、○「中学修身」二百部の奥附を文学社に付与す、○杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、

十六日、午前、曇天、加藤玄智及び植木屋来る、○午后、講義に大学に赴く、○雨、○不在中前田長善来る、○堀謙徳来る、○松本洪より「漢文学会々報」二冊を送来る、○「日本軍の暗黒面」を読む、○岡村鉉太郎より来状、○内閣一変して大隈内閣となる、外相は加藤高明、蔵相は若槻禮次郎、陸相は岡市之助、海相は八代六郎、法相は尾崎行雄、文相は一木喜徳郎、農相は大浦兼武、通相は武富時敏、内相は主相之を兼ね、○夜、「日本軍の暗黒面」を読む、

十七日、午前、晴天、杉山直記より速記を送来る、○石田和吉より来状、○甫守謹吾、島本愛之助、角田松壽来る、○「日本軍の暗黒面」を読む、○和田英作来りて肖像を画く、○午后、「中学修身」二百部及び「女子修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○速記を訂正す、○書状を松本洪及び山崎亀太郎に送る、○書状と原稿とを角田松壽に送る、○石田和吉、井上道喜、齋藤あい子来る、○「日本軍の暗黒面」を読む、○夜、引続き「日本軍の暗黒面」を読む、○「日本開闢史」を読む、

十八日、午前、晴天、日本書院より「出雲大神」を送来る、○講義に大学に赴く、○御殿場御厨町役場より来状、○「日本開闢史」を読む、○午后、帝国学士院に山上御殿に赴く、○教科書会より来状、○直井潔来る、○書状を角田松壽に送る、○「日本開闢史」

を読む、○山口英爾より来状、○「宮本武蔵と武士道」報徳に出づ、○夜、「日本開闢史」を読む、

十九日、午前、晴天、中央報徳会及び吉田充夫より来状、○日置健太郎より書状と原稿とを送来る、○「国民時報」の記者、阿藤俊雄の書状を携来る、○松浦一、蠣瀬彦藏来る、○午后、益之進を拉して宮本包則宅に赴き、刀剣鍛冶の状を観る、○不在中板垣良子、大島長江、難波芳子、野村俊子、五代厚子、御礼の為に来る、○臨時台湾旧慣調査会より「清国行政法」三冊を送来る、○「日本開闢史」を読む、○在朝鮮鳥居龍藏より絵葉書来る、○夜、「日本開闢史」を読む、○此頃、庭園の八重桜満開、

二十日、午前、曇天、吉田豊及び綿貫哲雄より来状、○講義に大学に赴く、○加藤玄智来る、○日清印刷会社より東亜の光口絵を送来る、○「女子修身」三百部の奥附を金港堂に付与す、○素行会より報告を送来る、○加藤玄智と昼餐を共にす、○午后、甫守謹吾、日進堂の契約書を携来る、○大野太衛来る、○文科大学より来状、○在米国 Sidney L. Gulick, The American Japanese Problem を送来る、○「東亜の光」口絵解題を印刷所に送る、○救世軍青木賢太郎より来状、○製本屋来る、○夜、伊藤吉之助来りて Sidney L. Gulick, The American Japanese Problem を読む、○帝国学士院より来状、

廿一日、午前、晴天、和田英作来りて肖像を画き了る、○「日本開闢史」を読む、○和田英作と昼餐を共にす、○午后、松本亦太郎、大島正徳、武藤儀亮、国府まささを来る、○河本重四郎より来状、○「中学修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○今西信太郎、神田乃武の紹介状を携来る、○書状を大西伊三郎に送る、○書

状を河上市藏及び新村喜一郎に送る、○ Gulick, The American Japanese Problem を読む、○ 縫子、井上成美宅に赴く、○ 夜、引続き Gulick を読む、

廿二日、午前、晴天、学習院に赴き、尋いで女学部に来る、皇后陛下の賜物を拝受す、○ 午后、教授会に山上御殿に赴く、○ 今西信太郎及び山崎數衛来る、○ 夜、カント、アーベンドに山上御殿に赴く、○ 此日、婦人画報社より為換入書状来る、○ 文科大学、駿東郡月報社及び綿貫哲雄より来状、○ 国書刊行会より参考大平記及び徳川文芸類聚を送来る、○ 「中学修身」一百部と「女子修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、○ 吉川男爵よりハーブード大学総長 A. Laurence Lowell の書状を廻送し来る、○ 谷弘治に英文日本現代人名辞書を予約す、

廿三日、午前、晴天、「エペソ」を読む、○ 女中ふみを大学に遣はす、○ 有風、落花繚乱、○ 午后、講義に大学に赴く、○ 「以弗所書」を読む、○ 吉田雪子来る、○ 大山巖、内大臣となる、○ 夜、「教界春秋」を草す、

廿四日、午前、晴天、福田源三郎より書状と「対林唱和集」(鶏林唱和集カ)とを送来る、○ 森良三郎及び野田健治来る、○ 男爵日置健太郎、盆栽を携来る、○ 葛西慶太郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○ 「教界春秋」を読む、○ 印刷所より「東亜の光」校正を送来る、○ 文明協会より「現今の南阿」及び「航空学」を送来る、○ 宮崎道三郎及び蓮沼門三より来状、○ 島本愛之助来る、○ 午后、校正及び「教界春秋」を印刷所に送る、○ 所得金額申告書を水道橋税務署に送る、○ 「女子修身」百八十部の奥附を金港堂に送る、○ 「日本開闢史」を読む、○ 夜、「日本開闢史」を読む、

廿五日、午前、雨天、講義に大学に赴く、○ 宮崎道三郎妻の訃報来る、○ 加藤玄智より来状、○ 午后、曇天、大野太衛来る、○ Sidney L. Gulick, The American Japanese Problem を読む、○ 高等商業学校に赴き学生の為に「日米関係より観たる道德と国家」を演述す、○ 後藤新平、神田乃武、横山達三と会見す、○ 夜、日本学会に山上御殿に赴く、寛克彦講演す、○ 文科大学及び婦一協会より来状、○ 此日、書状と菓物壱籠を宮崎道三郎に送る、○ 此頃、米国合衆国対メキシコ戦争開始す、

廿六日、午前、晴天、富山房よりビール半打を送来る、○ 金參拾壱円の為換を山崎亀太郎に送る、○ 祝電を福島県郡山町修養団支部に送る、○ 六盟館より印税を送来る、○ 六盟館員某来る、○ 河合清太郎来る、乃ち談話を速記せしむ、○ 「日本開闢史」を読む、○ 午后、哲学会に大学に赴く、鹿子木貞信と会見す、○ 押田三郎来る、○ 贈物を井上道喜、井上淳、井上俊雄等に送る、○ 金參拾壱円の為換を山崎亀太郎に送る、○ 夜、「日本開闢史」を読む、○ 吉田雪子より来状、○ 書状を吉田雪子に送る、○ 此日、「女子修身」三百部の奥附を金港堂に付与す、

廿七日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○ 「日本開闢史」を読む、○ 井上道喜、出発、福岡市に還る、○ 午后、綿貫哲雄、白井成允、吉田尊正、坂本剽、長野惟郷、坂本道来る、○ 文科大学、河上市藏、関芳三等より来状、○ 文部省より教科書類を送来る、○ 「日本開闢史」を読了る、○ 「以弗所書」を読む、○ 夜、「以弗所書」を読了る、○ 「何西阿書」を読む、○ 濫澤栄一より来状、○ 「現今の時勢上より観たる婦人の覚悟」婦人画報に出づ、

廿八日、午前、雨天、森良三郎、浦谷熊吉来る、○ 姉崎正治より印

刷物を送來る、○押田清子來る、乃ち共に博覽会に赴く、○演芸館、美術館等を觀る、○午后、曇天、六時頃帰宅、○教育實際社より書状と原稿とを送來る、○山崎亀太郎、大西伊三郎より來状、○夜、宮本和吉來る、○原稿を訂正して之を河合清太郎に送る、○清子宿泊、○此日、澤柳政太郎、京都大学総長を免ぜらる、

廿九日、午前、晴天、学習院に赴き、尋いで女学部に赴く、○歸一協會より來状、○縫子、清子と博覽会に赴き、尋いで三越に赴く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○不在中製本屋、製本を携來る、○佐々木信綱、「やまと心」及び「類聚古集解説」を携來る、○西川嘉門夫妻來る、○竹内康二及び戒能義重より來状、○「何西阿書」を読む、○米国のThos. Champneysより來状、○夜、「何西阿書」を読む、○高商の学生、神田乃武の礼状を携來る、○「腓立比書」を読む、

三十日、午前、晴天、森良三郎來る、○「腓立比書」を読了る、○午后、「哥羅西書」を読む、○講義に大学に赴く、○文科大学より論文四篇を送來る、○夜、「保羅伝」を読む、○蠣瀬彦藏より來状、○蠣瀬彦藏に返事を送る、○この頃、巢鴨新築長屋（二十坪余）志棟二軒成る、従來の長屋を併せて総計七軒、

五月

一日、午前、晴天、角田松壽、島本愛之助來る、○「哥羅西書」を読了る、○押田清子より來状、○在米國小幡志げより縫子に來状、○「東亜の光」(九の五)成る、○「我國現代の謬想を破す」東亜の光に出づ、○「保羅伝」を読了る、○午后、風、内田融妻、小幡志げの贈物を携來る、○雑誌太陽の整理をなす、○「古神道大義」を読む、○夜、島崎重信來る、○青木賢次郎より來状、○

日本弘道会より來状、○「古神道大義」を読む、○山口英爾來る、二日、午前、曇天、講義に大学に赴く、○製本屋來る、乃ち之に太陽及び心理研究等を付与す、○午后、丁酉倫理会に学生会事務所に赴く、寛克彦の普遍的自我に就いての講演あり、○大島義脩、吉田賢龍等と会見す、○雨、○夜、雨天、文科大学及び松下禎二より來状、

三日、午前、雨天、押田清子より縫子に來状、○「大日本神名辞書」を送來る、○書状を藤原喜代藏及び榎本勝多に送る、○松下禎二より小包を送來る、○午后、曇天、秋田市の長井行より書状と著書とを送來る、○兎輩を拉して博覽会に赴く、○村松志孝、鷲尾順敬の紹介状を携來る、○夜、丙午出版社よりSwedenborgに關する書類六冊を送來る、○研究、

四日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○土蔵に入りて書籍を整理す、○午后、加藤玄智より來状、○根本通徳、「戦国策譚概」を携來る、○吉田精一郎、尾古四郎、村松志孝來る、○文科大学より論文二冊を送來る、○大野太衛、松原一義、吉田雪子、山口英爾來る、○学生の論文を読む、○夜、「杏園遺稿」の序を作る、○奈良の女子高等師範より「学校概覽」を送來る、○藤原喜代藏より來状、○学生の論文を読む、

五日、午前、半晴、森良三郎來る、○井上健兒より小包を送來る、○福田源三郎來る、乃ち之に「杏園遺稿」の序を付与す、○松下專吉來る、○大日本圖書会社より「文芸思潮論」を送來る、○學生の論文を読む、○帝國大学より「大日本古文書」を送來る、○午后、快晴、新村喜一郎來る、○学生の論文を読む、○文科大学より論文三冊を送來る、○縫子、吉田宅に赴く、○鳩山一郎來る、

○教科書会より会議案を送来る、○竹内康二来る、○夜、学生の論文を読む、○有風、○大清来る、○日置健太郎及び辻本卯藏より来状、○此日、縫子を三井銀行に遣はす、○此頃、「オイケンと其哲学」帝国教育に出づ、

六日、午前、晴天、岡部長職より来状、○学習院に赴く、○文科大
学より論文一冊を送来る、○弘道館より「中学修身」原稿二冊を
送来る、○書庫に入りて書籍を整理す、○午后、高橋亨及び花田
伸之助来る、○縫子、懐中時計を買ひに外出す、○文科大より
論文を送来る、○夜、吉田雪子来る、○白石実三より原稿を送来
る、○伊藤吉之助来る、○学生の論文を読む、

七日、午前、半晴、武藤儀亮来る、○文科大より論文を送来る、
○「帖薩羅尼迦前書」(帖撒羅尼迦前書カ)及び「後書」を読了る、
○巢鴨の植木屋来る、○午后、講義に大学に赴く、○フローレン
ツと会談す、○不在中大野太衛来る、○「黙示録」を読む、○夜、
「黙示録」を読む、○夜半、雨、

八日、午前、晴天、縫子、御殿場に赴く、○保科孝一來る、○今岡
信一良より来状、○「黙示録」及び「猶太書」を読了す、○「何
西阿書」を読む、○在独国友枝高彦より絵葉書来る、○午后、学
生の論文を読む、○「武士道」派と乃木大将」弘道に出づ、○村
松志孝より「山縣大武遺著」を送来る、○三並良来る、○夜、「古
神道大義」を読む、○縫子十時頃帰宅、○去る五日以来開会せる
臨時帝国議会、此日を以て閉会す、

九日、午前、半晴、講義に大学に赴く、○午后、福田源三郎より来
状、○校正を福田源三郎に送る、○Schopenhauer-Gesellschaft
より Mitgliedskarte für das Jahr 1914を送来る、○島本愛之助

来る、○学生の論文を読む、○夜、「^イ学生の論(文)」を読む、○
縫子、通俗学術講和会に大学に赴く、○日置健太郎より来状、○
前日来日月光を失うて楮色を帯ぶ、

十日、午前、曇天、菓子を井上健兒に送る、○原稿と書状とを日置
健太郎に送る、○森良三郎、武藤儀亮来る、○午后、成瀬仁藏来
る、○学生の論文を読む、○「近世儒家人物志」の序を草す、○夜、
岸田繁次郎より来状、○「利未記」を読む、○「中臣被詞」を読
む、○研究、○「倭姫命世記」を読む、

十一日、午前、曇天、男爵日置健太郎より書状と調布壱箱とを送来
る、○講義に大学に赴く、○深作安文来る、○不在中櫛引成太来る、
○山崎洋服店員来る、○「倭姫命世記」を読む、○午后、文科大
学の使者、論文を携来る、○論文二篇を文科大学の使者に付与す、
○堀謙徳、小野田亮正、来る、○村松志孝、来る、乃ち之に序文
を付与す、○「倭姫命世記」を読む、○内田正より「儒家理想学
認識論」を、仏国より Emile Boirac, La Psychologie inconnu 外
印刷物一冊を送来る、○櫛引成太、吉田雪子来る、○雨、○夜、
文科大より論文を送来る、○「倭姫命世記」を読了る、○学生
の論文を読む、○雨歇む、

十二日、午前、晴天、島本愛之助より来状、○学生の論文を読む、
○角田松壽来る、○女中ふみを遣はして加藤駒二(大学病院)に
菓子壱箱を送る、○午后、居林惣三郎より来状、○書状を居林惣
三郎に送る、○学生の論文を読む、○帝国学士院に赴く、○縫子、
高子と共に博覧会に赴く、○夜、驟雨、○九時、頃帰宅、
十三日、午前、晴天、東亜協会より来状、○学習院に赴き、尋いで
女学部に赴く、○午后、学生の論文を読む、○加藤玄智来る、○

文科大学より論文を送来る、○夜、大清来る、○学生の論文を読む、○別荘建築を決定す、

十四日、午前、曇天、井上円了及び山崎亀太郎より来状、○「提摩太前書」を読む、○製本屋来る、○井上波野、数日前分婉の報あり、○午后、講義に大学に赴く、○「提摩太前書」を読了す、○「師範修身」二百部の奥附を晩成処に付与す、○堀謙徳及び松尾円治等より来状、○石黒忠憲より印刷物を送来る、○「提摩太後書」を読む、○夜、時事彙存社より「日本西教史」を送来る、○書状を堀謙徳に送る、○学生の論文を読む、○此日、「女子修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、

十五日、午前、雨天、文部省より来状、○山崎洋服店員来る、○学生の論文を読む、○「皇国名医伝」を読む、○午后、曇天、深作安文、島本愛之助来る、○「提摩太後書」及び「提多書」并に「腓利門書」を読了る、○「大道本義」及び「古今神学類聚鈔」を読む、○夜、「陽春盧雜考」「神道弁惑」及び「古今神学類聚鈔」を読む、十六日、午前、雨天、瀧田哲太郎来る、○講義に大学に赴く、○加藤玄智より来状、○午后、書状を浅倉屋に送る、○午后、文部省より書類を送来る、○浅倉屋より「仏国曆象編」を送来る、○角田松壽来る、○哲学会より来状、○夜、雨歇む、○研究、○辻本卯藏より来状、

十七日、午前、雨天、大清、御殿場別荘設計図を携来る、○井上淳及び村松清陰より来状、○弘道館より「実験心理学十講」を送来る、○午后、春季哲学大会に大学に赴き、「メチニコフの学説に就いて」講演す、○夜、雨歇む、○山上御殿に会食し、フヒヒテ生後一百年の記念談話をなす、○山崎太郎治より来状、○不在中松原一義

来る、○「大日本仏教全書」を送来る、○大竹貫一及び早川龍介より「西野文太郎二十五年祭記念」を送来る、○此日、高橋里見及び武藤儀亮来る、

十八日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○岡松参太郎より使者を遣はし、書状と書籍とを送来る、○武藤儀亮来る、○午后、瀧田哲太郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○吉田修夫、白井成允来る、○足立栗園、「青年講和」を携来る、○在独逸補永茂助、在巴里吉田熊次及び修養团郡山支部より来状、○松原一義来る、○文科大学より来状、○夜、書状を武藤儀亮及び岡松参太郎に送る、○「希伯来書」を読む、○文科大学より来状、

十九日、午前、晴天、書状を飯沼松枝及び角田松壽等に送る、○浦谷熊吉、押田清子来る、○「希伯来書」を読む、○製本屋来る、○午后、書庫に入り、書籍の整理をなす、○瀧田哲太郎、原稿を携来る、○原稿を訂正して中央公論社の使者に付与す、○吉田雪子来る、○書状を白石実三に送る、○学生の論文を読む、○文科大学より論文二篇を送来る、○夜、押田三郎来る、○印刷所より「東亜の光」口絵を送来る、○学生の論文を読む、

二十日、午前、雨天、学習院に赴く、○文科大学より論文を送来る、○午后、曇天、花田浩太来る、有故不遇、○文明協会より「比較心理学」及び「濠洲及其諸島」を送来る、○乃木会より「講演集」を送来る、○「乃木大将と武士道学派」乃木会講演集ニに出づ、○上原才一郎より書状と「漢文教科書参考」三冊を送来る、○学生の論文を読む、○夜、教科書会より書類来る、○「東亜の光」口絵解題を印刷所に送る、○強風、後、雨、○学生の論文を読む、廿一日、午前、晴天、大清来る、○研究、○午后、講義に大学に赴

く、○今泉某来る、○「神学指要」を読む、○文科大学、帝国学
士院及び吉田雪子より来状、○夜、長谷川福平、漢文大系十冊を
携来る、○婦一協会より来状、○書状を吉田雪子に送る、○「神
学指要」を読む、○在米国姉崎正治より来状、

廿二日、午前、晴天、Schopenhauer-Gesellschaftより来状、○殯
宮拜礼の為、青山御所に赴く、○三上義夫、上村邦良、島本愛之助、
関宇一郎、竹内康二来る、○西川嘉門、及び在独逸宇井伯壽よ
り来状、○Stanton Coit, President of the West London Ethical
Societyより来状、○文科大学より使者来る、○午后、上村邦良、
八木沼源八来る、○教科書会に文部省に赴く、○三井銀行に赴く、
○「希伯来書」を読む、○製本屋来る、○夜、「教界春秋」を草す、
廿三日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○土田誠一来る、○午后、
大清来る、乃ち之に地所代価金参百五拾円を付与す、○加藤玄智
来る、乃ち之に地所代価金貳百五拾円を付与す、○「教界春秋」
を草す、○夜、博品館に赴き、尋いで心理学会に山上御殿に赴く、
大槻快尊の講演あり、○此日、押田清子より書状と西洋野菜とを
送来る、

廿四日、午前、曇天、教科書会より来状、○「教界春秋」を草し了
りて之を印刷所に送る、○過去一年間の会費金六円を婦一協会に
送る、○「鏗痴集」を読む、○慈恵救済の資として金六十萬円を
頒賜せらる、○減刑を行はせらる、○午后、晴天、「鏗痴集」を読む、
○御大喪に代々木葬場殿に赴く、○夜半式畢る、

廿五日、午前、三時半帰宅、○晴天、静臥、○午后、尾古四郎、吉
田豊吉、小中村清象来る、○学生の論文を読む、○夜、引き続き学
生の論文を読む、

廿六日、午前、晴天、東亜協会より来状、○学生の論文を読む、○
午后、学生の論文を読む、○書庫に入りて書籍を整理す、○玉利
喜造来る、○尾古四郎、宮崎道三郎等より来状、○国書刊行会よ
り「列侯深秘録」を送来る、○夜、学生の論文を読む、

廿七日、午前、晴天、女中ふみを文部省に遣はす、○学生の論文を
読む、○女中ふみを東海銀行に遣はす、○午后、学生の論文を読む、
○教科書会及び金港堂より来状、○夜、学生の論文を読む、○吉
田雪子より来状、○徳富猪一郎父淇水翁の訃報来る、○書状を吉
田雪子に送る、

廿八日、午前、晴天、「国民道德と国民教育」京都新聞に出づ、○
学生の論文を読む、○研究、○支那駐劄特命全權公使山座円次郎
昨二十七日心臟麻痺を起し、本日逝去すとの訃報あり、○秦政二
郎より来状、○午后、講義に大学に赴く、○文科大学より来状、
○教科書会に文部省に赴く、○夜、服部宇之吉、山口重知、吉田
秀高より来状、○不在中宮本和吉来る、

廿九日、午前、晴天、岩鼻長松より来状、○小中村清象、宮本和吉、
上村邦良、土田誠一、島本愛之助来る、○午后、書状を岩波岩雄
に送る、○文科大学より使者、書状を携来る、○教科書会に文部
省に赴く、○不在中岡野義三郎、及び尾古四郎来る、○宣光火事
「見」舞に中村正修方に赴く、○夜、紀平正美より来状、○「鏗痴集」
を読む、○此日、収賄軍人の判決書発表せらる、松本和、懲役三
年、澤崎寛猛は懲役一年、鈴木周二は無罪放免、

三十日、午前、雨天、岩波茂雄より来状、○河合俊貴、東亜協会々
員となる、○水道料金六、九〇を郵便局に納む、○書状を島本愛
之助及び山口重知に送る、○「政界、教界、新機運の到達点」中央公

論に出づ、○「国民道德と国民教育」参陽新報に出づ、○「メチニコフの生命観」中外日報に出づ、○角田松壽、「東亜の光」(九の六)拾部を携来る、○午后、徳富一敬の葬式に青山斎場に赴く、床次竹二郎、元田肇、成瀬仁藏、五島清太郎等と会見す、○不在中大清の使者来る、之に金五十円を付与す、○夜、「鏗痴集」及び「彼得後書」を読む、○「希伯来書」を読む、

卅一日、午前、晴天、書状を島本愛之助及び角田松壽に送る、○安河内健兒、白井成允、尾古四郎、境野哲、森良三郎等来る、○「希伯来書」を読む、○午后、武藤儀亮、大野太衛来る、○東亜協会より来状、○書庫に入りて書籍を整理す、○運動に大塚方面に出づ、○夜、縫子、春枝と共に成美宅に赴く、○口述試験の準備をなす、

六月

一日、午前、曇天、竹内康二、写物を携来る、○「教育上より見たる日米問題」教育の実際に出づ、○哲学及び哲学史の口述試験に大学に赴く、○不在中谷本富来る、○縫子、東海銀行に赴く、○午后、小中村清象及び大倉書店員来る、○福田源三郎「杏園遺稿」を携へ、御礼の為に来る、○在独乙上西半三郎より来状、○「日本民族の特性」新修養に出づ、○IV. Internationaler Kongress für Volkserziehung und Volksbildung Leipzig, September 1914より来状、○加藤弘之及び大野太衛より来状、○博士会書記高木善行来る、○在桑港正岡猶一より来状、○夜、論文審査報告文を草す、○「鏗痴集」を読む、

二日、午前、曇天、小雨、東洋大学より来状、○印度哲学の口述試験に大学に赴く、○「中学漢文」一百部の奥附を光風館に付与す、

○中央公論社より御礼の為に来る、○長谷川福平来る、○杉村義太郎より来状、○午后、「仏教大辞書」の序文を草す、○谷本富来る、○「メチニコフの生命観」中外日報に出づ、○仏書刊行会より来状、○夜、「仏教大辞書」の序文を草し了る、○「鏗痴集」を読む、

三日、午前、晴天、学習院に赴き、尋いで女学部へ赴く、○午后、長谷川福平の使者来る、乃ち之に「仏教大辞書」の序文を付与す、○書状を円藤鎮及び島本愛之助に送る、○松尾円治より来状、○原稿を今岡信一良に送る、○「新時代の道德」の序文を尾古四郎に送る、○「鏗痴集」を読む、○強風、○夜、「和漢絶妙詩選」及び「鏗痴集」を読む、

四日、午前、晴天、「鏗痴集」を読む、○秦政治郎来る、○倫理学の口述試験に大学に赴く、○午后、二時頃試験了る、○和辻哲郎、宮崎道及び岩波茂雄、不在中に来る、○教育実際社より御礼を送来る、○須山啓之助、大野太衛等来る、○池袋村に赴く、○海国青年社より来状、○「メチニコフの生命観」中外日報に出づ、○夜、岩波茂雄より送られる書類を読む、○此日、高橋亨より来場、○春枝、遠足に横浜に赴く、

五日、午前、晴天、市会議員選挙に区役所に赴く、○島本愛之助より来状、○島本愛之助、樋口秀雄、秦政治郎来る、○高橋亨より「東国通鑑」及び「海東釋史」を送来る、○府税市税金拾式円四拾四銭を郵便局に納む、○午后、「朱子哲学」「陽明哲学」及び「古学哲学」各五十部の奥附を富山房に付与す、○甫守謹吾来る、○帝国学士院より来状、○遠藤隆吉より使者、書状を携来る、○金式拾式円五十銭の為換を高橋亨に京城に送る、○関宇一郎、原安三郎来る、○「鏗痴集」を読む、○印刷物二冊を岩波茂雄に送る、

○「正親町公通卿口訣」を読む、○夜、「鏗痴集」を読む、○「正親町公通卿口訣」を読了り、「神道伝授」を読む、○「希伯来書」を読む、

六日、午前、晴天、尾古四郎、樋口秀雄、西川嘉門、文学博士会及び修養団等より来状、○社会学の口述試験に大学に赴く、○在独国補永茂助より Ferienkurse in Jena を送来る、○文科大学及び島本愛之助より来状、○午后、床屋に行く、○「陽春廬雜考」を読む、○夜、全国連合教育大会講演の準備をなす、

七日、午前、晴天、龍山義亮及び岩波茂雄より来状、○森良三郎来る、○馬上孝太郎、原稿を携来る、○全国教育大会に女子高等師範に赴き、「国民道徳の基礎に就いて」一場の講演をなす、○岡部長職、安達常正、野村勘左衛門等と会見す、○不在中大清来る、○白井成允来る、○午后、第十五回東亜協会講演大会に大学に赴き、「仏基二教と神道」に就いて講演す、○夜、東亜協会懇親会を山上御殿に開く、来会者約二十余名、○下田義照、河台俊賢等と会見す、○不在中境野哲来る、○修養団本部より来状、

八日、午前、晴天、縫子、益之進を拉して横浜に赴く、○書庫に入る、○富山房より校正を送来る、○校正を富山房の使者に付与す、○午后、小中村清象来る、○書庫に入る、○在独乙上西半三郎より来状、○書状を岩波茂雄に送る、○秦政治郎来る、○遠藤隆吉より来状、○林泰輔の論文を読む、○夜、文科大学より来状、○林泰輔の論文を読む、○七時頃縫子、益之進と共に帰来る、○此日、正勝、遠足に稲毛に赴く、○去る六日の日附を以て静岡県駿東郡御厨町東山字池上千参拾八番山林彦反式畝、片山清太郎より買受けの登記済む、との報あり、

九日、午前、晴天、山口重知より来状、○林泰輔の論文を読む、○書状を山崎武夫に御殿場に送る、○書状を博士会書記に送る、○角田松壽来る、○午后、平塚雉鳩来る、○「陽春廬雜考」を読む、○修養団熊本支部より来状、○運動に大塚方面に出づ、○書状を文科大学に送る、○夜、「陽春廬雜考」を読む、○林泰輔来る、

十日、午前、晴天、岡部長職及び弘道館より来状、○学習院に赴き、尋いで女学部に来る、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○福士末之助、御礼の為に来る、○夜、哲学会に山上御殿に赴く、○博士会より来状、

十一日、午前、晴天、森良三郎来る、○大橋浩堂より来状、○祝電を修養団支部に熊本師範学校に送る、○坂崎坦来る、○婦一協会及び島本愛之助より来状、○書状を谷内正順に送る、○午后、哲学の修了試験を行ふ、○松浦一来る、○書状を加藤弘之に送る、○加藤弘之より来状、○「神道伝授」を読む、○文科大学より答案と論文とを送来る、○学生の答案を読む、○「日本経済叢書」第一巻来る、○夜、学生の答案を読む、○山内計作来る、○書状を文科大学に送る、○「陽春廬雜考」を読む、○文部省より来状、

十二日、午前、晴天、東亜協会より来状、○The Ethical World を送来る、○小中村清象、島本愛之助、和辻哲郎、上村邦良来る、○製本屋来る、○縫子を東海銀行に遣はす、○午后、雨天、大野太衛来る、○坪内雄藏来る、尋いで森良三郎外二名来る、乃ち之に金参百円を付与す、○夜、帝国学士院に赴く、○岡野義三郎及び小笠原實成より来状、

十三日、午前、晴天、九時上野発の汽車にて出発す、○午后、一時頃栃木県真岡中学校に着す、○校友会の為に「青年期の修養」に

就いて一場の講演をなす、聴衆約五六百名、○校長遠山政三及び山口重知と会見す、○夜、十時頃帰宅、○坪内雄藏より著書二部を送来る、○加藤弘之より来状、○不在中大清より使者来る、○角田松壽来る、

十四日、午前、雷雨、後、霽る、○松浦一、飯島忠夫、大橋秀治、齋藤栄、来る、○春枝、高子と共に横浜に赴く、○救世軍より来状、○井上成美宅より鯉節と鶴子餅とを送来る、○午后、晴天、山内計作、小谷重来る、○河合俊貴、東亜協会々員となる、○宮本和吉より講演速記を送来る、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、

十五日、午前、晴天、大学に赴き、東洋哲学の口述試験を行ふ、○三井銀行に赴く、○高橋亨より来状、○「大日本仏教全書」を送来る、○金五百円を大清の使者に付与す、○午后、大橋秀治、小中村清象、森良三郎、常盤大定来る、○谷内正順より来状、○角田松壽来る、○冲図書館より来状、○夜、上田萬年及び桑木嚴翼の送迎会に偕楽園に赴く、○杉山直喜より速記を送来る、○山内計作、文科大学及び蓮沼門三等より来状、○此頃、在欧吉田熊次より縫子に來状、○仏書刊行会より扇子を、博文館より箱を送来る、

十六日、午前、曇天、金龍寺より書状と貝原益軒の画像を送来る、○小笠原実成来る、○速記を訂正す、○午后、北豊島郡菓鴨村大字池袋参百二十九坪を深野半藏より買受け、登記結了す、為に森良三郎外二名来る、乃ち之に金壹千八百拾圓五拾錢を付与す、○桑木嚴翼来る、○速記を訂正す、○「師範修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、○縫子、高子を拉して姉崎宅に赴く、○夜、宗

宮信行来る、○原稿を訂正して之を島本愛之助に送る、

十七日、午前、雨天、学習院に赴く、○「皇国名医伝」を大森金五郎に托して石井大佐に付与す、○原稿を角田松壽に送る、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○白井成允来る、○夜、帰一協会に精養軒に赴く、○此日、不在中製本屋来る、

十八日、午前、曇天、武藤儀道（トウ）より来状、○松浦伯爵より案内状来る、○森良三郎、白井成允来る、○女中ふみを学習院に遣はす、○原稿を大野太衛に返す、○上西半三郎の論文を宮本和吉に送る、○書状を島本愛之助及び角田松壽に送る、○午后、光風館より書状を印税とを送来る、○角田松壽来る、○岩倉鉄道学校に赴き、

一場の修養談をなす、○坪内雄藏より書状と金子馬治の著書三冊とを送来る、○学習院女子部の事務員来る、○夜、小中村清象来る、○真岡中学校校長遠山政三より来状、○大阪府立医専教師Dr. Uberscharより来状、○答案を読む、

十九日、午前、晴天、岡本武彜、学習院女子部より御礼の為に来る、○大橋秀治、岩橋遵成、鈴木弘、佐々木喜市、島本愛之助来る、○縫子、東海銀行に赴き、尋いで井上波野を訪ふ、○製本屋来る、○午后、Dr. Uberscharより論文 (Die Stellung des Kaisers in Japan) を送来る、○Schopenhauer-Gesellschaftより来状、○書状を山内計作及び三並良に送る、○「神道の特色」中外日報に出づ、○答案を読む、○甫守謹吾、大島正徳来る、○夜、岩倉鉄道学校に赴き、一場の修養談をなす、○「倫理と教育」壹百部の奥附を弘道館に付与す、○Transactions of the Asiatic Society of Japanを送来る、

二十日、午前、曇天、小雨、高子遠足に王子に赴く、○小笠原実成

来り、写真を撮る、○櫛引成太、竹内康二来る、○答案を読む、○在朝鮮鳥居龍藏より来状、○物集高見来る、○午后、辻本卯藏来る、○文科大学、石島健一、片山滴園、市島謙吉より来状、○答案を読む、○Mindを送来る、○樋口秀雄妻来る、○夜、答案を読む、○印刷所より「東亜の光」口絵を送来る、○日本学会案内状九通を発送す、○此頃、小中村清象より来状、

廿一日、午前、小雨、三並良、漢文学会及び帝国図書普及会より来状、○松浦一、小中村清象、宮岡文藏来る、○帝国図書普及会より「一代の修養」二部を送来る、○小中村清象再び来る、○書状を博士会及び文科大学に送る、○午后、「東亜の光」口絵解題を印刷所に送る、○速記を訂正す、○書状を上村邦良に送る、○谷山初七郎来る、○夜、日本学会に山上御殿に赴く、山内繁治及び服部宇之吉の講演あり、○廣江萬次郎より来状、

廿二日、午前、曇天、文明協会より「価値の哲学」及び「労働問題」を送来る、○吉田雪子来る、○哲学会の速記を訂正す、○四宮兼之来る、○午后、縫子、春枝と共に新橋に赴き、姉崎正治を迎ふ、○土田誠一、和辻哲郎、小中村清象、境野哲、山本卯一、上村邦良来る、○速記を訂正す、○大倉廣三郎より契約書を送来る、○吉田熊次、イタリヤのPissより絵葉書を送来る、○「中学漢文」四百部の奥附を光風館に付与す、○友枝高彦より来状、○姉崎正治帰京、○独逸大使 Graf von Rex より招待状来る、○文科大学より来状、○大倉書店員来る、○夜、速記を訂正す、○「古事記便要」を読む、○此日、帝国議会開会、○植木屋一人来る、

廿三日、午前、晴天、速記を訂正す、○女中ふみを三井銀行に遣はす、○国書刊行会より「参考太平記」及び「徳川文芸類聚」(第二冊)

を送来る、○印刷所より校正来る、○校正を印刷所に送る、○菓子志箱を姉崎宅に送る、○姉崎宅より贈物三種来る、○午后、速記を訂正す、○町田竹五郎より写真を送来る、○村松清陰及び佐渡日報社より来状、○角田松壽来る、○大内青巒、櫻井賢文、志水義暉、伊東義啓、大谷日有、半田良平、河合俊貴、山方石之助、山本卯一、二見幸平、佐々木順三、二川俊信、中村敬亮、東亜協会々員となる、○丸善店員来る、○姉崎正治来談す、○夜、金港堂より報告書来る、○報告書を認む、○書状を角田松壽に送る、○此日、中根半嶺逝く、享年八十四、

廿四日、午前、晴天、学習院に赴き、尋いで女学部へ赴く、○宮本和吉来る、○不在中伊藤吉之助来る、○島本愛之助より来状、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○弘道館より印税を送来る、○島本愛之助より報告来る、○夜、書状を独逸大使館に送る、○小中村清象及び伊藤吉之助来る、

廿五日、午前、晴天、富士川遊、後藤梧葉、友枝高彦来る、○縫子、井上成美宅に赴く、○丸善より Erkennen Und Leben 及び Sir Francis Galton, Essays in Eugenics を送来る、○原口鶴子より書状と著書とを送来る、○速記を訂正す、○坂崎坦来る、○午后、伊藤吉之助、四宮兼之来る、○「神道の特色」中外日報に出づ、○竹内康二、写物二巻を携来る、○夜、学友会に植物園に赴く、Heck, Cotte 等と会見す、○不在中棚橋一郎宅より造花志籠を送来る、○原稿を速達にて宮本和吉に送る、○「教界春秋」を草す、

廿六日、午前、曇天、深作安文、島本愛之助、松浦一、三上義夫、大倉廣三郎、九鬼周造、甫守謹吾来る、○午后、「師範修身」二百部の奥附を晚成処に付与す、○岡百世来る、○「教界春秋」

を草して之を印刷所に送る、○境野哲来る、○富士川游より来状、○書状を富士川游に送る、○独逸大使 Graf von Rex の招待を受け、カール、フロレーンツの送別会に独逸大使館に赴く、Dahlmann, Hermann Müller, Behrent, Thiel 及び市川代治、前田不二三等と会見す、○夜、十時過帰宅、○此日、小松大妃殿下薨去、廿七日、午前、雨天、辻本卯藏より来状、○「中学修身」を訂正す、○縫子、東京府師範小学に赴く、○史料編纂に赴き、田中義成を訪ふ、○午后、曇天、川上淳一郎、辻本卯藏来る、○教科書会より来状、○書状を山内計作に送る、○石川達仁より来状、○書状を石川達仁に送る、○早稲田大学長及び東京高商長より案内状来る、○文科大学より来状、○宗宮信行、宮本和吉来る、○夜、「古事記便要」を読む、○此日、元良博士の為に金拾円を心理学研究室に送る、

廿八日、午前、半晴、入澤宗壽、今福念、宮本兼則、中島泰藏、杉浦重剛、太田稠夫、鈴木弘、上村邦良、小谷重、来る、○博士会及び香川県修養団より来状、○齋藤省三来る、○午后、晴天、太田稠夫及び鶴岡五郎来る、○「芸備偉人伝」を読む、○深作安文来る、○帝国学士院及び蓮沼門三より来状、○夜、九鬼隆一の招燕に赴く、加藤弘之、菊池大麓、中島力造、中川忠順来会す、○此日、縫子、益之進と共に芝浦に赴く、

廿九日、午前、曇天、富士川游より来状、○書状を岸田繁次郎に送る、○奥国皇太子と同妃廿八日を以て市街通行中暗殺せらるとの報来る、○午后、晴天、教授会に大学本部に赴く、○広島県人会に赴き、「芸備二州に於ける徳川時代の文教」に就いて一場の講演をなす、浅野侯、永井潜、富士川游、山田陽朔、石橋臥波、下田次郎等と

会見す、○不在中加藤駒二より菓子箱及び鯉節とを送来る、○富山房より印税を送来る、○文部省博士会、文科大学、帰一協会、岡百世、丸山環、吉田雪子より来状、○此日、岡百世、白井成允、大学に來訪す、○島村抱月より、「懷疑と沈黙の傍より」を送来る、三十日、午前、晴天、鉄道院より「鉄道旅行案内」を送来る、○千頭清臣、森良三郎、浦谷熊吉来る、○松扉得悟より来状、○ Emil Schroeder 及び角田松壽来る、○書状を吉田雪子に送る、○姉崎正治より来状、○佐久間総督昨日負傷の報あり、○午后、撰氏三十度、○ Rudolf Eucken に送るべき書状を草す、○夜、博士会より来状、○伊藤吉之助来る、○書状を Rudolf Eucken に送る、○帝国教育会より来状、○ The fourth International Congress of Home Education より通知書来る、

大正三年〔西曆一九一四〕下半年期〕

七月

一日、午前、晴天、学習院に赴く、○不在中長谷川福平、「仏教大辞書」を携来る、○山内計作、補永まち及び修養団香川支部より来状、○戸谷国太郎、渡辺忠吾来る、○午后、教授会に大学に赴く、○縫子、三井銀行に赴く、○「日本民族の特性」新脩養に出づ、○夜、書状を山内計作に送る、○弘道館の「中学修身」を訂正す、二日、午前、晴天、修養団より来状、○「中学修身」を訂正す、○角田松壽、「東亜の光」(九の七)拾冊を携来る、○「帝王の学とは何ぞや」東亜の光に出づ、○午后、大野太衛来る、○フロレーンツ博士の送別会に上野精養軒に赴く、○「巽軒詩鈔」二冊をフロレーンツに送る、○ Junker, Berliner 等と会見す、○夜、八時

頃帰宅、○富塚恂、三浦精翁、船津三平より来状、

三日、午前、晴天、土田誠一、松浦一、辻本卯藏、林勃爾、白井成允、島本愛之助来る、○岩田僊太郎より書状と印税とを送来る、○午后、内田銀藏、大瀬甚太郎、枝元長夫及び製本屋来る、○東朝社より使者、原稿を携来る、○帰一協会に赴く、○江原素六、鎌田栄吉、松村介石、高木壬太郎、フヒツシャー、コルケート等と会見す、○夜、十時過帰宅、○箕作家より「箕作阮甫」を送来る、○文科大学より来状、○小谷重より原稿を送来る、○此日、気温撰氏三十二度に上る、○松浦一より来状、

四日、午前、晴天、樋口秀雄、林高美及び製本屋来る、○文学社より菓子入れを送来る、○「中学修身」を訂正す、○午后、博士会に文部省に赴く、○磯江潤より鯉節を送来る、○夜、渡辺忠吾、太田稠夫来る、○枝元長夫より送れる原稿を訂正す、○文科大学及び上田整次等より来状、○此日、文学博士井上頼圀逝く、享年七十六、

五日、午前、晴天、有風、宮本包則、吉田静致来る、○帝国学士院授賞式に美術学校に赴く、一木喜徳郎、内田周平、加納治五郎、狩野亨吉等と会見す、○天曇る、○不在中朝永三十郎、贈物を携来る、○午后、電報を佐渡日報社及び香川県修養団に送る、○「中学修身」を訂正す、○橘惠勝より林檎志箱を送来る、○東亜協会より来状、○山本卯一、鈴木弘、江中鍊次郎、諸橋轍次、東亜協会員となる、○益之進、活動写真に赴く、○夜、「中学修身」を訂正す、○「やまと心」を読む、

六日、午前、晴天、「中学修身」の原稿を弘道館の使者に付与す、○藤井健治郎来る、○深作安文より来状、○書状を島本愛之助、

坪内雄藏及び呉秀三に送る、○電話料金拾六円五拾銭を郵便局に納む、○清水彦五郎奨学資金金貳円を小峯孝容に送る、○「中学読本」を整理す、○午后、瀨本志げ来る、○三井集会所に赴き、「衛生と修養」を演述す、○成瀬隆藏、三井高精等と会見す、○不在中姉崎益子より菓物志籠を送来る、○夜、雨天、興学会に山上御殿に赴く、○「中学読本」を整理す、

七日、午前、晴天、文部省より辞令書来る、曰く、教員検定委員会臨時委員被仰付、○島本愛之助より来状、○石川景藏、樋口秀雄、新村喜一郎、角田松壽来る、○書状を井上頼文に送る、○「弁明書」東京日々に出づ、○午后、小谷重来る、○半晴、○文部省及び菊池大麓より来状、○「中学修身」を訂正す、○香江誠より「太宰府碑」の写真を送来る、○大学生理学教室に赴き、リハルド、ゴールドシユミットの講義を聴く、○夜、姉崎正治の招燕に上野精養軒に赴く、○雨、○九時頃帰宅、○「中学修身」を訂正す、

八日、午前、曇天、加藤宏二郎来る、○教授会に山上御殿に赴く、○不在中島本愛之助来る、○午后、「日本陽明哲学」の奥附五十枚を富山房に付与す、○「中学修身」を訂正す、○松井錦橘来る、○運動に白山方面に赴く、○天霽る、○夜、小中村清象来る、○「中学修身」を訂正す、○此日、小澤錦十郎より来状、○此頃、在独逸高瀬武次郎より来状、

九日、午前、晴天、文科大学より椎尾辨匡の論文を送来る、○「中学修身」を訂正す、○運動に植物園方面に出で、吉田宅を訪ふ、○午后、「中学修身」の原稿を弘道館の使者に付与す、○小石川区教育会より来状、○石川達仁より透聴の実験録を送来る、○石川達仁の実験録を読む、○印度哲学及び宗教学の学生に招待され

て芝浦見晴亭に赴く、○夜、九時頃帰宅、○教科書会より書類来る、○東亜協会より原稿を送来る、○此日、丸善よりビール壺打を送来る、

十日、午前、曇天、松本虎雄来る、○大学卒業式に赴く、○卒業生総数九百八十九人、○富田順吉より博多帯を、を送来る、○植木屋来る、○午后、文明協会より砂糖を送来る、○石川達仁の報告書を読む、○澁澤男爵邸に赴く、坪野平太郎亦来る、○夜、九時頃帰宅、○不在中田中義能来る、○檜山鎮心より「心身修養療法」を送来る、○石川達仁の報告書を読む、

十一日、午前、雨天、枝元長夫、後藤静香等より来状、○深作安文、島本愛之助来る、○石川達仁の報告書を読了る、○書状を融道玄に送る、○「中学修身」を訂正す、○午后、「中学修身」を訂正す、○姉崎正治来る、○日独協会より *Satzungen und Mitgliederverzeichnis des Japanisch-Deutschen Vereins* を送来る、○浅倉屋より菓子壺箱を、三省堂よりビール半打を送来る、○林平次郎よりビール半打を、前川文栄閣よりサイダー半打を送来る、○縫子砂糖を携へて姉崎宅を、菓子壺箱を携へて吉田宅を訪ふ、○秦政二郎より贈物壺箱を送来る、○夜、曇天、「中学修身」を訂正す、○東亜協会より報告書来る、○中島徳藏及び山内計作より来状、○此頃、文学社より菓子壺箱を、大清より砂糖壺箱を送来る、

十二日、午前、曇天、上田萬年を新橋に送る、○石川景藏、長谷川福平、鶴岡五郎来る、○富山房よりシヤボンを、日進堂より菓子を受く、○森良三郎、桃壺箱を携来る、○光風館より盆を、同文館より文具を送来る、○午后、甫守謹吾来る、乃ち之に「中学読本」の

原稿二冊を付与す、○「古事記便要」を読む、○書状を島本愛之助及び秦政二郎等に送る、○小谷重より原稿を送来る、○大野太衛、高子に贈物を携来る、○「中学修身」を訂正す、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○六盟館よりハンケチ二打を送来る、○「中学修身」を訂正す、○此日、佐藤平太郎より来状、

十三日、午前、曇天、加藤玄智より書状と鉄瓶とを送来る、○「中学修身」第四巻を弘道館の使者に付与す、○白井成允より来状、○「中学修身」を訂正す、○電話料金六拾銭を郵便局に納む、○岡百世、御礼の為に来る、○文成社より鯉節と団扇とを送来る、○角田松壽来る、広文堂よりハンケチ壺打を送来る、○贈物を井上健兒、井上淳、吉武誠及び井上精一に送る、○黒田裕三、東亜協会々員となる、○午后、晴天、枝元長夫来る、乃ち談話を筆記せしむ、○島本愛之助来る、○黒木安雄より茶器壺箱を送来る、○辻本卯藏来る、乃ち之に「中学修身」第五巻を付与す、○「メ、チニコフ」の学説に就いて、哲学雑誌に出づ、○書状を黒木安雄及び榎本勝多に送る、○使者を遣して書状と羽二重壺反とを田代義徳に送る、○齋藤基次郎より海苔二缶を送来る、○吉田静致妻、菓物壺籠を携来る、○富山房より「近思録」と「日韓古史断」とを送来る、○光風館より書状と「中学漢文参考」を送来る、○大倉書店よりビール壺箱を、弘道館よりシトロン壺箱を送来る、○速記を訂正す、○夜、殷雷、速記を訂正す、○文明協会、井上末及び村松清陰より来状、○石川景藏より来状、○笹川氏より砂糖壺箱を送来る、

十四日、午前、晴天、青木賢次郎より来状、○原安三郎よりハンケチ壺打を送来る、○小中村清象来る、○言継卿記及び日本風俗図

絵を送来る、○伊藤吉之助来る、○吉田修夫よりシトロン壺箱を、磯邊弥一郎よりビール半打を送来る、○松井錦樹より来状、○浴衣を富田順吉に、海苔を富田春山に、菓子を井上末に、菓子を田中次郎に送る、○速記を訂正す、○午后、隆文館より団扇二本を送来る、○報告書を石川達仁に送返す、○速記を訂正す、○島本愛之助、葡萄酒三本を携来る、○丸善店員来る、○遠藤隆吉より砂糖と半襟とを送来る、○大島正徳より来状、○元田肇、紹彦反を携来る、○三上義夫来る、○菓物壺箱を井上成美に送る、○夜、速記を訂正す、○婦人画報社より書柬箋拾帖を送来る、○枝元長夫より来状、

十五日、午前、晴天、杉山直記、速記を携来る、○学習院女学部へ赴く、○融道玄、小松曾右衛門及び久保太郎より来状、○不在中加藤玄智、鈴木弘より来状、○博文館よりビール半打を送来る、○枝元長夫より小包を送来る、○午后、曇天、商工労働者慰安会に伝通院へ赴き、一場の講演をなす、○乃木会より来状、○書状を小松曾右衛門、大野松太郎及び丸善洋書店に送る、○山崎亀太郎より来状、○林高美より菓子壺箱を送来る、○夜、速記を訂正す、○大清来る、

十六日、午前、晴天、川田鏡弥、石川景藏、大野松太郎、田澤巳之助、鈴木弘、姉崎袖子来る、○文科大学より使者来る、○小中村清象来る、有故不遇、○午后、速記を訂正す、○書状を山崎亀太郎及び大清に送る、○縫子、益之進を拉して巢鴨に遊ぶ、○山崎亀太郎及び朝永ひて子より来状、○丸善より洋書拾六冊を送来る、○有馬祐政及び小笠原宥鋭より来状、○縫子、益之進を拉して巢鴨に遊ぶ、○山崎亀太郎及び朝永ひて○製本屋、菓物壺箱を携来

る、○夜、速記を訂正して之を島本愛之助に送る、○書状を山崎亀太郎に送る、○哲学会の速記を訂正す、

十七日、午前、晴天、哲学会の速記を訂正す、○影山勝より来状、○縫子を三井銀行に遣す、○常盤大定来り、仏書を検す、○角田松壽、白石実三来る、○吉田雪子、贈物を携来る、○印哲及び宗教学卒業生及び補永茂助より来状、小雨、○午后、曇天、丸善より洋書二種を送来る、○速記を訂正す、○文明協会より「都市の児童」及び「墨西哥」を送来る、○閑院宮季子女王薨去、○運動に大塚方面へ赴く、○服部宇之吉より来状、○夜、速記を訂正す、○縫子、姉崎及び笹川宅へ赴く、

十八日、午前、曇天、木村泰賢、浦谷熊吉、有富虎之助、宇野哲人、四宮兼之、大島正徳来る、○縫子、雪子と共に順天堂へ赴く、○午后、速記を訂正す、○縫子、一時半頃帰宅す、○鈴木弘来る、○書状を円藤鎮に送る、○青木倉藏及び喜多村惣治良より来状、○川田鏡弥より来状、○書状を宮本和吉及び北村惣治良に送る、○夜、小雨、竹内康二、写物を携来る、○速記を訂正し了りて之を宮本和吉に送る、○書状を服部宇之吉に送る、

十九日、午前、晴天、「中学読本」を整理す、○有富虎之助、梶山彬、坂本謹吾、得能文、曾根松太郎、高木範之丞来る、○吉田碩造、吉田修夫と共に台湾茶を携来る、○宮本和吉より来状、○午后、土用干をなす、○「生命論」を草す、○吉武誠来る、○夜、吉武誠と晚餐を共にす、○「中学読本」を整理す、○此日、写真を石川松溪の使者に付与す、

二十日、午前、半晴、高千穂中学に大久保に赴き、一場の講演をなす、○不在中長谷川福平来る、○常盤大定来りて仏書を検す、○

上野精養軒より扇子二本を送来る、○午后、晴天、常盤大定と午餐を共にす、○白石実三来る、乃ち談話を筆記せしむ、○川田鍊弥使者を遣はし、書状と贈物とを送来る、○大島正徳、服部宇之吉及び藤井健治郎より来状、○「大日本仏教全書」を送来る、○「教界春秋」を草す、○「東亜の光」を送来る、○「東亜の光」口絵解題を印刷所に送る、○夜、「教界春秋」を草す、
 廿一日、午前、曇天、大清来る、○大掃除、○大野太衛来る、○「仏基二教と神道」雄弁に出づ、○午后、「教界春秋」を草して之を印刷所に送る、○天齋る、○白石実三より筆記を送来る、○夜、晴天、筆記を訂正す、○文科大学より来状、○「大谷本願寺由緒通鑑」を読む、
 廿二日、午前、晴天、小柳司氣大来る、○仏書の土用干をなす、○著述をなす、○午后、三井銀行に赴き、尋いで築地に赴き、東京電気瓦斯会社を訪ふ、○甫守謹吾来る、○富田いわ子、姉崎袖子より来状、○枝元長夫より原稿を送来る、○夜、大清的使者来る、乃ち之に金四百円を付与す、○前川文栄閣より書状と「旧約聖書の宗教」を送来る、○原稿を富山房の白石実三に送る、○筆記を訂正して之を枝元長夫に送る、○古武誠来る、○Wilhelm Ostwald, Die Philosophie der Werte を読む、○「大谷本願寺由緒通鑑」を読む、○此日、印度哲学及び宗教学卒業生より写真を送来る、
 廿三日、午前、晴天、角田松壽、枝元長夫及び小松曾右衛門より来状、○書状を小川銀次郎に送る、○笹倉新治、小林光助、油谷隆吉、東亜協会々員となる、○得能文妻くみ子砂糖壺籠を携来る、○書状を角田松壽に送る、○仏書の土用干をなす、○Wilhelm

Ostwald, Die Philosophie der Werte を読む、○女中ふみを大学に遣はす、○午后、引続き、Ostwald を読む、○著述に従事す、○川田鍊弥、「大正博覧会紀念写真帖」を携来る、○小笠原実成より写真二枚を、日比野寛より印刷物を送来る、○林泰輔、小中村清象来る、○「日本経済叢書」第二冊を送来る、○夜、吉田雪子来る、○Wilhelm Ostwald, Die Philosophie der Werte を読む、○此日、涎掛を甘木富田に、菓子を柳石ませの遺族に送る、
 廿四日、午前、晴天、堀内静宇、白井成允、島本愛之助来る、○曝書、○為換書状を姉崎正治に京都に、又南摩記念資金募集事務所に送る、○宅地租金七、五八五及び府税市税金二、五六五、合計金拾円○拾五銭を郵便局に納む、○Rudolf Eucken, Erkennen und Leben を読む、○午后撰氏三十四度、華氏九十二度、○川田鍊弥より来状、○蟹江操子来る、○著述に従事す、○夜、小雨、Schelling, Werke, 殊に Von der Weltsede を検す、
 廿五日、午前、晴天、濱野知三郎より来状、○長井行来る、○著述をなす、○縫子、児女を拉して買物に外出す、○曝書、○小雨、William James, A Pluralistic Universe を読む、○午后、山崎惟治、出口競、相良益次郎来る、○著述をなす、○長井行、中熊直喜、松尾円治より来状、○夜、宮本和吉、小山鞆繪、伊藤吉之助来る、○著述をなす、○此日、大江文城より来状、○御殿場の別荘、殆ど成る、
 廿六日、午前、長井眞琴来る、○小雨、○松浦一、甫守謹吾、田中義能及び白石実三来る、○午后、曇天、著述に従事す、○姉崎正治より来状、○雷雨、○岩田僊太郎よりシートを送来る、○夜、専ら著述に従事す、

廿七日、午前、晴天、野田義夫より来状、○吉田雪子来る、○縫子、雪子、春枝、高子と共に大正博覧会に赴く、○著述に従事す、○午后、曇天、小中村清象、白石実三来る、○ウントの写真を白石実三に付与す、○著述に従事す、○大清来る、○御殿場東山別荘成る、○長沼鷺藏より来状、○Wilhelm Ostwald, Die Philosophie der Werte を読む、○夜、引続き Ostwald を読む、○伊藤吉之助、書籍三冊を携来る、

廿八日、午前、曇天、宮崎彦磨、森良三郎来る、○Wilhelm Ostwald, Die Philosophie der Werte を読む、○午后、小雨、井沢修二より瓶入りの贈物を、目黒書店より菓子を送来る、○著述をなす、○露国の Graf Hermann Keyserling より論文二篇を送来る、○成田四郎来る、Kuno Fischer, Geschichte der neuern Philosophie を読む、○藤井健治郎来る、○松原一義来る、不レ遇、○夜、研究、

廿九日、午前、晴天、大野太衛より来状、○著述に従事す、○塙塞開戦、○午后、白井成允来る、○製本屋来る、○益之進を拉して牛込納戸町に赴く、○夜、荷物を御殿場に発送す、○松原一義来る、

三十日、午前、晴天、明治天皇祭、曝書、○贈物を押田三郎母に送る、○著述をなす、○法貴慶次郎より鯉節を送来る、○午后、白井成允来る、○著述をなす、○富田貞松より来状、○菓子を齋藤儀八に送る、○夜、御殿〔場〕行の準備をなす、

卅一日、午前、晴天、井上円了、竹内康二、和木一郎より来状、○金原善三郎、森良三郎来る、○井上健兒より儀助煮と飴とを送来る、○大倉書店より扇子を送来る、○渡辺忠吾より写真を送返し来る、○角田松壽来る、○「東亜の光」(九の八)成る、○「ケー

ベル、フロレンツ二氏を送る」東亜の光に出づ、○書状を瀬戸虎記に送る、○午后、三、五○新橋発、児輩を拉して御殿場に向ふ、○夜、七時頃御殿場着、○八、三○頃東山別荘着、

八月

一日、午前、晴天、深作安文より来状、○山崎惟治、山崎亀太郎等来る、○午后、休養、○夜、縫子来る、○富岡永馬、島本愛之助より来状、○金原善三郎より著書二部を送来る、○此日、独逸対露官戦布告、〔頁下部に「必要ハ法ヲ知らず」の新聞記事切抜貼付〕

二日、午前、晴天、小谷重、吉田秀吉及び下野教育会より来状、○贈物を加藤玄智及び隣家に送る、○午后、「中学読本」を訂正す、○井上俊雄より来状、○山崎亀太郎より使者来り、「富士登山の栞」を贈る、○夜、「中学読本」を訂正す、○此日、露国官戦布告、

三日、午前、曇天、江部淳夫、岡部良英より来状、○金港堂より原稿を送来る、○寺尾秀子来る、○午后、雨天、「中学修身」を訂正す、○書状を認む、○春枝、益之進、女中と共に御殿場に赴く、○雷鳴、○赤間富次郎、戒能義重、井上英子より来状、○夜、引続き「中学修身」を訂正す、○夜半、大雨、仏国、露国と交戦状態に入る、

四日、午前、曇天、「中学修身」を訂正す、○書状を甫守謹吾及び岡部良英に送る、○白井成允、長谷川福平、岡野義三郎、野田禮雄、全壽子より来状、○反物を一反宛長田国太郎、蓑屋倉藏、渡辺重吉、鈴木又兵衛、小宮山源太郎、勝俣勘四郎、岩田廣太郎、小宮山庄次郎、山口龍藏に送る、○午后、「中学修身」を訂正す、○雷鳴、○「中学読本」巻五を甫守謹吾に送る、○書状を認む、○渡辺久太郎外村民数名来る、○夜、「中学読本」を訂正す、○英独戦争状態に入る、

- 五日、午前、晴天、白井成允、境野哲、津金馨より来状、○山崎亀太郎、岩田廣太郎、勝俣勘四郎等来る、○書状を長谷川福平、甫守謹吾に送る、○「中学修身」巻一を小谷重に送る、○押田三郎来る、○午后、曇天、「中学読本」を訂正す、○加藤玄智、小宮山源太郎来る、○齋藤壽七より来状、○夜、「中学読本」を読む、○月明、
- 六日、午前、晴天、武藤儀亮、今岡信一良、宗兵藏、嘉納治五郎より来状、○「中学読本」を訂正す、○書状を認む、○午后、曇天、引続き「中学読本」を読む、○書状を白井成允、影山勝に送る、○伊藤七太郎来る、○押田三郎、腸胃加答児を患ふ、○旧地所を見る、○九ノ里虎之助、丸山軒義、上岡市太郎及び文科大学より来状、○金港堂より原稿を送来る、○夜、腸胃加答児を患ふ、○此日、加藤玄智を別荘に訪ふ、○地中海独艦隊三隻撃滅せらる、○澳洪国对露国宣
- 七日、午前、晴天、腸胃加答児癒ゆ、○午后、押田三郎、横浜に帰る、○「中学修身」を訂正す、○土屋賢三、岩田逸司、渡辺久太郎来る、○押田三郎母より缶詰類を送来る、○唐川徹より来状、○帰一協会々報二冊を送来る、○夜、「中学修身」を訂正す、
- 八日、午前、晴天、島本愛之助、深作案文、市政松藏、全精一、八杉貞利、六盟館、吉武静子、等より来状、○縫子、児輩と共に乙女峠に登る、○「中学読本」及び「中学修身」を訂正す、○午后、「中学修身」を訂正す、○齋藤儀八及び在独国吉田熊次より来状、○小包を甫守謹吾に送る、○此日、露对澳宣戦、
- 九日、午前、晴天、押田三郎、全清子、瀨本繁子より来状、○原稿を小谷重に送る、○ラフハエル、フォン、ケーベル出発、独逸に還る、○書状を認む、○運動にアメリカ村方面に赴く、○「哲学と宗教」の原稿を整理す、○午后、書状を白井成允に送る、○乙竹岩造、及びDr. Raphael von Koberより来状、○有賀長雄母の訃報来る、○「哲学と宗教」の原稿を整理す、
- 十日、午前、晴天、欧洲戦報紛々、或は云ふ、独軍白国に戦ひ大敗すと、或は云ふ、英国艦隊、独国水雷艇の為に襲撃せらると、或は云ふ、独国皇太子、白国に於て重傷を被ると、或は云ふ、澳国皇帝崩御せらると、真偽分明ならず。○縫子、児輩と二岡神社に詣す、○大清来る、○午后、書状を白井成允に送る、○「哲学と宗教」の原稿を整理す、○芝田徹心より来状、○夜、「哲学と宗教」の原稿を整理す、○夜、大清来る、
- 十一日、午前、晴天、「哲学と宗教」の原稿を整理す、○吉田雪子、白井成允、齋藤省三、小中村清象、及び東亜協会より来状、○留守宅より小包を送来る、○台湾討伐隊解隊の報あり、○二岡神社々司内海某及び山崎亀太郎来る、○午后、吉田雪子来る、○「中学読本」を訂正す、○元田肇より来状、○夜、「中学読本」を訂正す、○此頃、独白戦争の際、独軍の死傷二萬五千人、因りて七十二四時間の休戦を申込みとの報あり、
- 十二日、午前、晴天、書状を有賀長文に送る、○小谷重より原稿を送来る、○報あり、曰く、仏軍アルサス州アルトキルヒに進撃して大捷を獲、独軍死傷三萬なりと、○午后、児輩を拉して二ノ岡神社に謁す、○書状を齋藤省三に送る、○「中学修身」を訂正す、○「中学読本」(八九十)を甫守謹吾に送る、○「生理学者の生命論」哲学雑誌に出づ、○夜、暴風雨、○此日、英澳開戦、
- 十三日、午前、暴風雨、○「哲学と宗教」の原稿を整理す、○濁水、

家を環りて流れ、道路杜絶して人馬の往来なし、○午后、引き続き原稿を整理す、○竹林規矩夫より来状、○鉄道電線等に故障あり、○夜、「哲学と宗教」の原稿を整理す、○夜半、風雨、

十四日、午前、晴天、原稿を整理す、○山崎亀太郎来る、○反物を渡辺久太郎に送る、○福田屋主人来る、○午后、原稿を小谷重に送る、○原稿を整理す、○岩田廣太郎来る、

十五日、午前、晴天、加藤玄智と途上に会談す、○原稿を整理す、

○午后、曇天、逢坂元吉郎来る、○書状を島本愛之助に送る、○

原稿を整理す、○甫守謹吾より来状、○夜、雨、○此日、天皇還御、十六日、午前、晴天、書状を白井成允に送る、○藤本政介及び在米

国久保良英より来状、○「哲学と宗教」の原稿を整理す、○報あり、曰く、独逸皇帝大本營をアーヘンに移し、進んで親ら軍隊を指揮

すと、○縫子雪子春枝等運動に山上に赴く、○「教界春秋」を草す、○書状を認む、○午后、雨天、「教界春秋」を草す、○原稿

を整理す、○「教界春秋」と書状を島本愛之助に送る、○白井成允及び濱家熊雄等より来状、

十七日、午前、晴天、原稿を整理す、○午后、引き続き原稿を整理す、○報あり曰く、去る十五日、帝國政府は独逸に最後通牒を發すと、

其箇條四あり、其文左の如し、

日本政府は日英協約の條章に依り東洋の平和を確保するの必要上、独逸政府に対して左の勧告的要求を為す、一、独逸軍艦は支那海より撤退す可し、二、支那に還附するの目的を以て即時膠州湾を日本に引渡す可し、三、九月十五日までに膠州湾内に於ける軍艦は武装を解除し、諸砲台は撤廃を行ふ可し、四、右要求に対する回答は、本月廿三日を期限とす、

十八日、午前、晴天、原稿を整理す、○小谷重より来状、○去る

十五日の東京日々に記事あり、曰く、袁世凱に三十人の子あり、十五人は男子、他は女子なりと、内田銀藏曰く、徳川家齊には五十五人の子あり、男二十八人、女二十七人、生母十六人、側室

四十人、○家族を携へて運動に東山湖附近の松林に出づ、○午后、山崎亀太郎来る、乃ち共に往いて小宮山の地所を觀る、帰途基督

教青年会に赴く、○山出半次郎、山崎亀太郎来る、○吉田静致、松田源治郎、島本愛之助、小中村清象、岸田繁次郎より来状、

十九日、午前、晴天、吉田雪子出發、東京に還る、○山崎亀太郎、寺尾晋来る、○午后、原稿を整理す、○富田俊夫より来状、

二十日、午前、晴天、山崎亀太郎来る、○吉田雪子、片山清太郎より来る、○家族と共に運動に山野に出づ、○原稿を整理す、○午

後、原稿を整理す、○夜、甫守謹吾及び白井成允より来状、○加藤玄智来る、○此日、山崎亀太郎、小宮山源太郎と共に来り、畑

地売買の事を共議し、遂に六反二畝二十八歩買求のことに決定す、○羅馬法王パイアス十世崩御、享年七十六、

廿一日、午前、晴天、留守宅より眼鏡を送来る、○番人を山崎宅に遣はす、○山崎亀太郎来る、○午后、渡辺久太郎来る、○書状を

白井成允に送る、○山崎亀太郎、小宮山庄次郎等来る、○夜、原稿を整理す、○此日、地所の境界を検分す、○「富士登山の栞」

を読む、

廿二日、午前、晴天、原稿を整理す、○山崎亀太郎及び測量師等来りて境界を定む、○一一、一〇頃御殿場發、○午后、三、四〇頃帰

宅、○秦政二郎より書状とスルメを送来る、○書状を甫守謹吾に送る、○夜、新聞を読む、○此日、不在中島本愛之助、角田松壽

来る、

御殿場滞在中留守宅訪問者は間端吾、長谷川福平、桑木嚴翼、上村邦良、曾根松太郎、松原一義、角田松壽及び金港堂員櫛引某来訪す、○小谷重より原稿を送来る、○「師範修身」百八十三部の奥附を晩成処に付与す、○東亜協会より演説速記を送来る、○境野哲より「禪宗小史」を、大矢透より「周代古音考」三冊を、文明協会より「近代立法の精神」及び「西比利亞」を、山内繁雄より「細胞と遺伝」を、国書刊行会より「〔〕徳川文芸類聚」及び「参考保元平治物語」を丸善より Windelband, Einleitung in die Philosophie, Boutroux, Natural Law in Science and Philosophy, and Silberstein, The Theory of Relativity, を、其他それぞれの刊行会より「日本経済叢書」第三及び「日本風俗図絵」第二第三を送来る、○文部省より試験答案を送来る、○三越より風呂敷を、柳万ぬぬにより茶を、齋藤省三より書翰箋を送来る、

廿三日、午前、晴天、松本文三郎及び大野太衛より来状、○書状を島本愛之助及び角田松壽に送る、○松原一義、土田誠一、小谷重、片山清太郎来る、○曝書、○午后、甫守謹吾来る、○日独交戦状態に入る、○枝元長夫より来状、○書状を森良三郎、山崎亀太郎、小宮山源太郎及び加藤玄智に送る、○島本愛之助より来状、○夜、新聞を読む、○対独宣戦の大詔煥発せらる、

廿四日、午前、雨天、島本愛之助来る、○女中ふみを大学に遣はず、○床屋に赴く、○午后、晴天、辻本卯藏、大壁早治、上村邦良、角田松壽来る、○夜、「中学修身」を訂正す、

廿五日、午前、晴天、森良三郎来る、○井上淳及び丸善より来状、

○原稿を小谷重に送る、○曾根松太郎来る、○大清の使者に別荘建築費残額金二五〇、五一を付与す、経費総計金一一五〇、五一なり、○午后、鈴木善太郎来る、○原稿を金港堂の使者に付与す、○井上縫子、山崎亀太郎及び吉田修夫より来状、○書状を井上縫子に送る、○検定試験の答案を読む、○夜、書状を山崎亀太郎に送る、○朝日新聞社より使者来る、乃ち之に原稿を付与す、○瀨野義一より来状、○試験の答案を読む、

廿六日、午前、晴天、時局に関する談話、朝日新聞に出づ、○弘道館の使者来る、○女中ふみを東海銀行に遣はず、○井上淳より鶏卵素麵壺箱を送来る、○市澤弥一來る、○三井銀行に赴く、○阿部維巖より来状、○午后、書状を井上縫子、吉田雪子、押田清子に送る、○小中村清象来る、○試験の答案を読む、○夜、伊藤吉之助来る、○試験の答案を読む、

廿七日、午前、晴天、試験の答案を読む、○書状を押田清子及び丸加商會に送る、○多木悦造及び井上春枝より来状、○弘道館の使者来る、乃ち之に原稿を付与す、○曝書、○志水代次郎、贈物を携来る、○東海銀行に赴く、○午后、金四百七拾壺円の為換を封入せる書状を小宮山源太郎に送る、○白井成允去る、○市澤弥一來る、乃ち談話を筆記せしむ、○夜、山本和吉来る、○小林三治郎より来状、○書状を小林三治郎に送る、○家族一同、御殿場より還る、○枝元長夫より来状、○日澳国交断絶、

廿八日、午前、曇天、有風、今岡信一良、上村邦良、桑木嚴翼来る、○午后、書状を小澤錦十郎、中熊直喜、吉田修夫、阿部維巖、大江文城、富岡永馬、乙竹岩造、戒能義重、芝田徹心、多木悦造、藤本政介、岡野義三郎、江部淳夫、深作安文、唐川徹、上岡市太郎、

松田孫治郎、岸田繁次郎、津金馨、野田禮雄、全壽子、瀆家熊雄、竹林規矩夫、吉田静致、宗兵藏に送る、○浦谷熊吉来る、○文科大学の使者、書状を携来る、○博品館に赴く、○夜、押田清子、藤原喜代藏より来状、○此日、「婦人画報」に望む、婦人画報に出づ、廿九日、午前、雨天、入澤宗壽来る、○在欧津野慶太郎より来状、○書状を岡百世に送る、○午后、風雨、原稿を整理す、○山崎亀太郎より来状、○「時局談」群馬新聞に出づ、○帝国学士院より来状、○書状を帝国学士院に送る、○市沢弥一、原稿を携来る、○筆記を訂正す、○夜、筆記を訂正す、○暴風雨、電燈悉く滅す、三十日、午前、晴天、強風、小林照朗、波多野精一、小谷重、孤田萬一郎、大壁早治、景山眞盛来る、○市沢弥一來る、乃ち原稿の老部分を付与す、○午后、市沢弥一の筆記を訂正す、○松原一義来る、有故不遇、○夜、島本愛之助より来状、○原稿を整理す、廿一日、午前、晴天、天長節、長谷川福平、甫守謹吾、大島直治、森良三郎来る、○書状を小宮山源太郎に送る、○午后、書状を山崎亀太郎に送る、○速記を訂正す、○六盟館員来る、○原稿を市澤弥一に付与す、○角田松壽、「東亜の光」を携来る、○「東亜の光」(九の九)成る、○夜、速記を訂正す、

九月

一日、午前、曇天、姉崎袖子来る、○速記を訂正す、○塩谷温来る、○午后、晴天、速記を訂正す、○岡百世より来状、○夜、岡百世より「觀光紀遊」を送来る、○「日本人の決心」勢州毎日新聞に、「油断のならぬ対手を持つた」岐阜日々新聞に出づ、○丹羽瀧男来る、乃ち談話を速記せしむ、○試験の答案、文部省より来る、○試験の答案を読む、

二日、午前、晴天、上村邦良来る、○吉田雪子、秋山悟庵来る、○午后、弘道館より書状と修身書五冊とを送来る、○「師範修身」壹百部の奥附を金港堂に付与す、○原稿を整理す、○夜、枝元長夫代来る、乃ち談話を速記せしむ、○原稿を整理す、

三日、午前、晴天、山崎亀太郎より来状、○御殿場・東山畑地六反二畝二十八歩の売渡証来る、去る八月二十七日登記済、○深作安文、島本愛之助、秋田太吉、宇野哲人来る、○セントペーテルスブルグは去る八月三十日を以てペトログラードと改称せり、○吉田静致及び久保田勝弥より来状、○午后、原稿を整理す、○夜、文部省より検定試験の答案を送来る、○長井眞琴より来状、○杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○試験の答案を読む、

四日、午前、半晴、阿部東作来る、○文科大学の使者来る、○書状を認む、○奥藤力雄来る、○午后、為換入の書状を山崎亀太郎に送る、○大橋秀治及び大清来る、○島本愛之助より来状、○試験の答案を読む、○夜、杉山直記来る、乃ち談話を速記せしむ、○月蝕、○折田彦市より来状、○此日、帝国議会開会、○文部省より試験答案を送来る、

五日、午前、晴天、三時押田清子、男子を産む、勇雄イサヲと名づく、○縫子、横浜に赴く、○カルデナル、デラチーサ羅馬法王に選任せられ、ベネデクト十五世と称す、○浦谷熊吉来る、○検定試験の答案を読む、○午后、河合清太郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○試験の答案を読む、○Th. Gomperz, Griechische Denker を読む、○川上栄一來る、○夜、姉崎正治、吉田雪子来る、○杉山直記来る、乃ち談話を速記せしむ、○経師屋掛物二軸を携来る、○縫子帰来る、

- 六日、午前、晴天、枝元長夫より原稿と書状とを送来る、○杉山直喜より速記を送来る、○深作安文、島本愛之助、大橋欽、坪田栄陽、大倉廣三郎来る、○速記を訂正す、○午后、速記を訂正す、○大清来る、○原稿を訂正して之を婦人画報編輯所に送る、○試験の答案を読む、○夜、試験の答案を読む、○松原一義来る、
- 七日、午前、晴天、試験の答案を読む、○書状を中島力造に送る、○大工来る、○書庫内を整理す、○文科大学の使者来る、乃ち之に書状を付与す、○縫子、吉田宅に赴く、○午后、書庫内を整理す、○岩橋遵成、大沼新吉、川上栄一、中野達慧、山原三郎、甫守謹吾来る、○文科大学及び興学会より来状、○文部省より試験の答案を送来る、○文明協会より「軍事世界地理」及び「夢の心理」を送来る、○深作安文妻来る、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○速記を訂正す、
- 八日、午前、晴天、書庫内を整理す、○山崎亀太郎より来状、○大工来る、○試験の答案を読む、○中島泰藏より来状、○丹羽瀧男より速記を送来る、○午后、三上義夫、より来状、○教育実際社より書状と筆記とを送来る、○試験の答案を読む、○速記及び筆記を訂正す、○夜、速記を同文館に、筆記を教育実際社に送る、○佐々木喜市より来状、○試験の答案を読む、
- 九日、午前、晴天、杉山直喜より速記を送来る、○伊藤吉之助、鈴木宗突来る、○午后、速記を訂正す、○文科大学より来状、○文部省より使者来る、○久保泰助来る、○運動に大塚方面に出づ、○夜、試験の答案を読む、○吉田雪子来る、○此日、大工来る、十日、午前、曇天、齋藤精輔、林勃爾来る、○書状を島本愛之助に送る、○試験の答案を読む、○午后、間端吾、齋藤省三妻来る、
- 書庫内を整理す、○加藤弘之及び丁西倫理会より来状、○鶴澤總明、西田政造及び婦一協会より来状、○夜、試験の答案を読む、○雨、○此日、帝国議会閉会、
- 十一日、午前、小雨、教授会に山上御殿に赴く、○不在中武藤儀亮来る、○午后、山崎亀太郎より来状、○雨歇む、○試験の答案を読む、○縫子、吉田宅に赴く、○吉田熊次、独逸に於て行方不明となる、○夜、試験の答案を読む、○書状を五島清太郎に送る、
- 十二日、午前、晴天、栗原廣廓、福井晋太郎、片桐耿介来る、○武藤儀亮、秋田露甘露漬二罎を携来る、○梅田梅次郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○縫子、横浜押田宅に赴く、○影山勝より来状、○女中ふみを文部省会計課に遣はす、○午后、試験の答案を読む、○渡辺源松来る、○文科大学より来状、○吉田熊次に関する談話、やまと新聞に出づ、○福井晋太郎より来状、○縫子、横浜より還る、○夜、溝淵進馬及び有賀長雄全長文より来状、○試験の答案を読む、
- 十三日、午前、雨天、高桑駒吉妻の計報来る、○橘惠勝ビスケキツト壺箱を携来る、○山岸光宣来る、○試験の答案を読む、○「戦争と道德との関係」丁西倫理に出づ、○午后、大雨、検定試験の答案を読る、○白井成允来る、○速記を訂正す、○夜、速記を訂正す、○藤井健治郎より来状、○帝国教育会より談話筆記を送来る、
- 十四日、午前、大雨、講義に大学に赴く、○此学年の講義題目は、東洋哲学史概説と生命の哲学、是れなり、○山本清明及び坪野平太郎より来状、○不在中森良三郎来る、○午后、雨歇、速記を訂正す、○書状を岡百世に送る、○夜、引続き速記を訂正す、○夜

半、風雨、○此頃、市内及び地方各処洪水の報あり、○吾軍、平度に達す、

十五日、午前、晴天、文科大学、塚原政次、藤本萬治、菰田萬一郎及び大日本雄弁会より来状、○速記を訂正す、○有風、○東亜協会より来状、○午后、速記及び筆記を訂正す、○縫子、買物に外出す、○我軍即墨占領、○浦谷熊吉来る、○原稿を帝国教育会に送る、○夜、書状と原稿とを島本愛之助に送る、○速記を訂正す、

十六日、午前、晴天、富山房より来状、○学習院に赴く、○不在中手塚良道及び酒卷壽子来る、○「実業修身」一百部の奥附を六盟館に付与す、○吉田熊次行方分る、○為換入の書状を山崎亀太郎及び高桑駒吉に送る、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○辻新次代理来る、○東亜協会より来状、○婦一協会に上野精養軒に赴く、○不在中吉田雪子来る、○夜、十時半頃帰宅、○澁澤栄一、福井晋太郎及び高桑駒吉より来状、

十七日、午前、半晴、修養団及び其他より来状、○勉強、○大工来る、○縫子、吉田及び姉崎宅に赴く、○午后、講義に大学に赴く、○瀬戸虎記、大野太衛及び日本弘道会より来状、○雷雨一過、○試験の答案を読む、○夜、吉田雪子来る、○書状を島本愛之助に送る、○速記を訂正す、○此日、植田彌吉より青魚及び紫錦苔を送来る、○加藤弘之より来状、

十八日、午前、晴天、酒卷壽子、手塚良道、甫守謹吾、角田松壽来る、○午后、島本愛之助、元田直来る、○書状を加藤弘之、塚原政次及び日本風俗図絵刊行所に送る、○ヴントに関する談話、学生立志号に出づ、○富田春山より来状、○速記を訂正す、○夜、書状を富田春山及び藤井健治郎に送る、○伊藤吉之助来る、○書状を

藤本萬治に送る、

十九日、午前、晴天、瓦屋来る、○浦谷熊吉来る、○書状を辻新次、折田彦市、影山勝及び大日本雄弁会に送る、○文科大学の使者来る、乃ち之に問題を付与す、○午后、人類学会に大学に赴く、○鳥居龍藏、沼田頼輔等と会見す、○湯原元一より「生活及社会観」を、青木昌吉よりフローレンツの写真を送来る、○齋藤庸一郎、白井成允及び鶴沢法律事務所より来状、○夜、湯原元一に札状を送る、○常盤大定より来状、○「呂氏春秋」を読む、○此頃、三越より新築記念袱紗を送来る、

二十日、午前、晴天、春枝、高子と共に横浜押田宅に赴く、○工藤勇来る、○「日本風俗図絵」を送来る、○曾根松太郎及び広文章員来る、○呂氏春秋を読む、○屋根屋来る、○午后、半晴、帝国学士院より来状、○呂氏春秋を読む、○書状を藤原喜代藏に送る、○大清来る、○原稿を整理す、○夜、書状を島本愛之助に送る、○呂氏春秋を読む、○姉崎正治より来る、○此日、衣服耄揃を横浜押田宅に送る、

廿一日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○追試験を行ふ、○不在中鳥居龍藏其著 *Etudes Archéologiques et Ethnologiques* を携来る、○屋根屋来る、○勝田吉次郎の計報来る、○午后、宮本和吉、角田松壽来る、○文科大学より来状、○原稿を整理す、○書状を勝田吉治郎に送る、○夜、辻本卯藏来る、乃ち之に「哲学と宗教」の原稿を付与す、○試験の答案を読む、○呂氏春秋を読む、

廿二日、午前、晴天、浦霧末松、山本卯一、山田珠樹来る、○原稿を整理す、○屋根屋来る、○呂氏春秋を読む、○彼岸団子を吉田宅及び姉崎宅に送る、○午后、友枝高彦、森良三郎来る、○原稿

を整理す、○山口龍藏、山崎亀太郎、折田彦市、松尾円治等より
来状、○彼岸団子を井上成美宅に送る、○夜、有風急起、○原稿
を整理す、○鶴澤法律事務所より来状、○伊藤吉之助来る、

廿三日、午前、晴天、弘道館、同文館及び藤本萬治より来状、○講
義に学習院に赴く、○不在中篤田健二、武藤儀亮来る、○宮本和吉、
論文を携来る、○屋根屋来る、○女中ふみを大学に遣はす、○午
后、教授会に山上御殿に赴く、○小西俊平来る、○印刷所より「東
亜の光」口絵を送来る、○「大日本仏教全書」を送来る、○吉田
雪子来る、○夜、書状を文科大学に送る、○「東亜の光」口絵解
題を印刷所に送る、○文科大学より論文を送来る、

廿四日、秋季皇霊祭、午前、小雨、在独逸補永茂助より来状、○武
藤儀亮、吉川重吉来る、○縫子、春枝と高子とを拉して買物に外
出す、○午后、呂氏春秋を読む、○神宮徳壽来る、○書状を心理
学会に送る、○「教界春秋」を草す、○富田春山より来状、○夜、
岩瀬又吉来る、○「教界春秋」を草す、○「教界春秋」を印刷所
に送る、○呂氏春秋を読む、

廿五日、午前、曇天、冷氣、中島眞一、山本卯一、本間和一、石川
小一郎来る、○午后、在欧洲補永茂助より来状、○書状を山崎亀
太郎、鳥居龍藏、竹内康二、杉山直喜及び岩瀬又吉に送る、○鳥
本愛之助来る、○原稿を整理す、○婦人画報発行所及び藤田季莊
等より来状、○文科大学より答案を送来る、○夜、原稿を整理す、
廿六日、山鹿素行の命日、午前、晴天、所得税金三三、二二銭及び
府税市税金六、五五銭、合計金三九、七七銭を郵便局に納む、○縫
子、吉田及び姉崎宅に赴く、○原稿を整理す、○竹内康二来る、
乃ち之に「及門録」を付与す、○試験の答案を読む、○午后、速

見滉、宮本和吉来る、○山鹿素行法要に宗参寺に赴く、松浦伯爵、
肝付兼行、日下寛、山本信哉、外崎覚等と会見す、黒板勝美及び
西村豊の講演あり、○丸善より来状、○「軍国の婦人に望む」婦
人画報に出づ、○広文堂員来る、○夜、伊藤吉之助来る、○杉山
直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○原稿を整理す、

廿七日、午前、曇天、若守義孝、哲学会及び婦一協会より来状、○
辻本卯藏、古城貞吉、田中義能来る、○陶山鈍翁遺著及び言継卿
記(第二)を送来る、○吉田雪子、神戸に赴く、○姉崎一家転宅、
○午后、大倉廣三郎来る、○呂氏春秋を読む、○運動に大塚方面
に出づ、○夜、勉強、○杉山直喜より速記を送来る、○峰間信吉
より来状、

廿八日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○岩下壯一、大学に來
訪す、○IV. Internationaler kongress für Volkserziehung und
Volkbildungより来状、○午后、吉田熊次、神戸に着し、電報
を送来る、○手塚良道、村上專精、宮坂詰宗来る、○文科大学よ
り来状、○電話にて処々に吉田熊次帰朝の事を通知す、○夜、大
谷庄治、杉山直喜来る、○速記を訂正す、○岡百世より来状、

廿九日、午前、雨天、春枝を携へて、吉田熊次を新橋に迎ふ、辻新
次、中川謙二郎、津野慶太郎、和田英作、松浦鎮次郎、渡部董之
助、三宅鑛一等と会見す、○岡百世より印刷物二冊を送来る、○
午后「青年雄弁集」を送来る、○甫守謹吾来る、○書状を文科大
学に送る、○速記を訂正す、○広文堂員、「新常識論」を携来る、
○高子、吉田宅に赴く、○夜、弘道館の使者来る、乃ち之に原稿
を付与す、○此日、縫子、吉田宅に赴く、

三十日、午前、雨天、学習院に赴き、尋いで女学部に赴く、○不在

中森良三郎来る、○小谷重より原稿を送来る、○川久保建来る、
○文科大学より来状、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○夜、
哲学会に山上御殿に赴く、○島本愛之助より来状、○不在中竹内
康二、写物を携来る、

十月

一日、午前、晴天、勉強、○午后、講義に大学に赴く、○上原才一
郎、菓子壺箱を携来る、○東亜協会より来状、○保坂善作、鴨治
一、相澤富藏、鶴田吉太郎、東亜協会々員となる、○文科大学よ
り来状、○夜、姉崎吉田送迎会に上野精養軒に赴く、来会者総計
十八人、

二日、午前、晴天、浦谷熊吉、平塚唯鳩来る、○午后、上原才一郎
より来状、○中村徳之進より書状と「仏教の系統」を送来る、○
深作安文、島本愛之助来る、因りて幹部会を開く、○「倫理と宗
教との関係」五拾部の奥附を富山房に付与す、○日本弘道会及び
中條精一郎より来状、○「教育上より見たる時局」教育之實際に
出づ、○「東亜の光」(九の十)成る、○「時局」に対する感想」
東亜の光に出づ、○夜、高橋長夏来る、○杉山直喜来る、乃ち談
話を速記せしむ、

三日、午后、晴天、島本愛之助及び姉崎正治より来状、○森良三
郎、伊藤吉之助来る、○縫子、姉崎宅に赴く、○午后、「実業修
身」を訂正す、○丸善店員来る、乃ち之に洋書拾壺部の代価金
三四、二五銭を付与す、○夜、「実業修身」を訂正す、○婦一協会
より来状、○書状を小谷重に送る、○帝国教育会より来状、○閻
齋の「経名考」及び羅山の「經典題説」を読む、

四日、午前、晴天、姉崎正治の米国に赴くを送るが為に、益之進を

携へて新橋に到る、○佐々木秀一、三島復、上村邦良来る、○在
山形吉田熊次より来状、○午后、広文堂員来る、○「經典題説」
及び「七経劄記」を読む、○一徳会より来状、○小谷重来る、○
押田安子、鶴子餅と鯉節とを携来る、○「実業修身」を訂正す、
○夜、勉強、

五日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○小野清秀より来状、○午
后、帝国学士院及び群馬県知事三宅源之助より来状、○小中村清
象、鈴木弘、征矢野晃雄、高藏智海来る、○「中学修身」二百部
の奥附を文学社に付与す、○運動に音羽方面に出づ、○夜、杉山
直記来る、乃ち談話を速記せしむ、○書状を一徳会に送る、

六日、午前、晴天、「勅語教本」参百部の奥附を晚成処に付与す、
○ペンキ屋来る、○「実業修身」を訂正す、○正勝、大学病院齒
科に赴く、○「実業修身」を訂正し、之を小谷重に送る、○書状
を検定試験委員会に送る、○角田松壽、辻本卯藏、手塚光貴来る、
○原稿を小谷重に送る、○夜、興学会に山上御殿に赴く、○不在
中伊藤吉之助来る、○村上專精及び其他各種学会より来状、

七日、午前、晴天、学習院に赴く、○弘道館の使者来る、乃ち之に
原稿を付与す、○「戦争と教育」帝国教育に出づ、○午后、三好
学より来状、○書状を三好学、中村徳之進、村上專精、折田彦市
に送る、○日本学会案内四通を発送す、○夜、婦一協会に赴く、
菊池大麓の講演あり、○此日、「日本大藏經」の第一套を送来る、
八日、午前、雨天、研究、○地震、○午后、講義に大学に赴く、○
吉田熊次、全雪子及び宇野哲人来る、○夜、杉山直喜来る、乃ち
談話を速記せしむ、○大野太衛、松尾圓治、より来状、○速記を
訂正す、

- 九日、午前、晴天、酒巻壽子、島本愛之助、姉崎袖子来る、○森木謙郎より来状、○鉢力屋来る、○正午姉崎袖子和昼餐を共にす、○午后、電話使用料金一六、五〇銭を郵便局に納む、○書状を森木謙郎及び松尾圓治に送る、○哲学研究室より使者来る、○在倫敦補永茂助より来状、○速記を訂正す、○夜、速記を訂正す、○「呂氏春秋」を読む、○在倫敦上西半三郎より来状、
- 十日、午前、晴天、「呂氏春秋」を読む、○植木屋ペンキヤ共に来る、○日高驥三郎より来状、○午后、「呂氏春秋」を読む、○一木文相より第八美術展覧会優待券を送来る、○木村泰賢来る、○書状を手塚良道に送る、○縫子、吉田宅及び井上成美宅に赴く、○「山草堂集」を読む、○夜、「山草堂集」及び「支那通史」を読む、○此日、製本屋来る、
- 十一日、午前、晴天、慶田茂、松浦一、岩橋遵成、本間和一来る、○小谷重より原稿を送来る、○植木屋及びペンキ屋来る、○羅馬尼亞皇帝崩御の報あり、○東京師範附属小学校より来状、○午后、筑紫某及び廣井辰太郎来る、○「呂氏春秋」を読む、○松原一義来る、○「山草堂集」を読む、○夜、日本学会に第一学生集会所に赴く、○雨、○鵜澤法律事務所より来状、
- 十二日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○人類学教室に赴き、坪井正五郎記念資金として金参円を納む、○午后、縫子を三井銀行に遣はす、○手塚良道、浦谷熊吉、広文堂員、白井成員来る、○書状を関宇一郎、藤井健次郎、三好学に送る、○夜、帝国学士院に赴く、○文科大学及び東亜協会より来状、○浅倉屋より小包を送来る、○日本美術院より案内状来る、○此日、宮崎光太郎より葡萄を送来る、
- 十三日、午前、晴天、関宇一郎より来状、○高子、遠足に大宮に赴く、女中ふみ附添なり、○書状を山崎亀太郎、日高驥三郎及び中央報徳会に送る、○東京地方裁判所より呼出状来る、○Max Verworn, Allgemeine Physiologieを読む、○三好学及び蓮沼門三より来状、○「古事類苑」の総目録及び索引を送来る、○午后、引続をVerworn, Allgemeine Physiologieを読む、○「象山全集」を検閲す、○伊東忠太来る、○運動に小日向方面に出づ、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○折田彦市及び教員検定委員会より来状、
- 十四日、午前、晴天、学習院に赴く、○東亜協会より来状、○博文館より小包を送来る、○東京地方裁判所より呼出状来る、○「実業修身」を訂正す、○午后、「国民道徳叢書」(巻一)五百部の奥附を博文館に送る、○教授会に山上御殿に赴く、○書状を島本愛之助に送る、○山崎亀太郎より来状、○書状を宇野哲人に送る、○Schelling, Von der Weltseeleを読む、○夜、伊藤吉之助来る、○Schelling, Von der Weltseeleを読む、○「実業修身」を訂正す、
- 十五日、午前、晴天、南葵文庫より来状、○縫子、春枝と共に三越に赴く、○Schelling, Von der Weltseeleを読む、○午后、伊藤吉之助来る、○講義に大学に赴く、○「実業修身」を訂正す、○杉山直喜より速記を送来る、○公益通信社より「文章総覧」を送来る、○不在中宇野哲人来る、○井上成美宅より松萱を送来る、○夜、井上円了より書状と原稿とを送来る、○「実業修身」を訂正す、○速記を訂正す、
- 十六日、午前、晴天、文科大学及び上野精養軒より来状、○伊藤吉之助、酒巻壽子、三宅美良、宇野哲人、武藤儀亮及び六盟館員来

る、○酒巻壽子、東亜協会員となる、○「実業修身」を訂正す、
 ○ペンキ屋来る、○午后、書状を新渡戸稲造、小柳司氣太、内田
 周平、宇野哲人に送る、○「古学哲学」五十部の奥附を富山房に
 付与す、○「実業修身」を訂正す、○島本愛之助、角田松壽来る、
 ○帝国学士院より来状、○日本大学及び人道講和会より来状、○
 夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○書状を鹿田静七に
 送る、○「実業修身」を訂正す、○有賀長雄より来状、○書状を
 伊東忠太に送る、○此日、高島嘉右衛門逝く、享年八十三、
 十七日、午前、晴天、神嘗祭、和田英作より印刷物を送来る、○児
 輩、吉田宅に赴く、○「実業修身」を訂正して之を小谷重に送る、
 ○縫子、得能文宅に赴き、尋いで吉田宅に赴く、○鍼力屋来りて
 ストープを据附く、○「呂氏春秋」を読む、○友田宜剛、「青年
 の修養」を携来る、○六盟館より印刷物を送来る、○桑原隲藏よ
 り松茸壱籠を送来る、○午后、鈴木弘来る、○日本大蔵経編纂会
 に金八五、○○円を支払ふ、○「呂氏春秋」及び「史記呉太伯世家」
 を読む、○夜、日高眞実二十年忌に星ヶ岡茶寮に赴く、杉浦重剛、
 山口鋭之助、山田新一郎、鈴木馬左也等と会見す、○一徳会、帝
 国教育会、桑原隲藏及び小柳司氣太より来状、○此日、ペンキ屋
 来る、
 十八日、午前、晴天、後曇る、白井成允来る、○ペンキ屋来る、○
 午后、哲学会に大学に赴く、友枝高彦、桑木嚴翼の講演あり、○
 雨、○人道講和会に東洋女学校に赴き、「戦争と人道」を演述す、
 ○内田周平及び教育実務社より来状、○「女子修身」壱百部の奥
 附を金港堂に付与す、○春枝、正勝、高子等、文展に赴く、○夜、
 弘道館より校正来る、○西田政造より来状、○竹内康二来る、乃

ち之に書籍四冊を付与す、○研究、

十九日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○岩下壯一来る、○午后、
 中島利一郎より来状、○酒巻壽子より原稿を送来る、○和田英作、
 九鬼周造、深作安文、広文堂員来る、○村上專精、御礼の為に來
 る、○弘道館より校正来る、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速
 記せしむ、○速記を訂正して之を榎本勝多に送る、○此日、西田
 政造より松茸壱籠を送来る、○松山直喜より速記を送来る、○ペ
 ンキヤガラスヤ共に来る、○温度高く撰氏二三度に昇る、
 二十日、午前、曇天、島本愛之助より来状、○書状を島本愛之助に
 送る、○小谷重より原稿を送来る、○雨、○校正、○午后、校正、
 ○書状を小谷重に送る、○姉崎増子、小杉熙、森良三郎来る、○
 校正を印刷所に送る、○富岡永馬より来状、○池袋の地所二八五
 坪を買求むることを約す、○鹿田静七より来状、○長距離電話料
 金二〇銭を郵便局に納む、○夜、増子と晚餐を共にす、○富岡永
 馬より林檎壱箱を送来る、○文明協会より「国際的現代日本」と「生
 命之不可思議」とを送来る、○校正、○孔子誕辰会案内状を亀谷
 聖馨、横井忠直、三宅少太郎に送る、
 廿一日、午前、晴天、孔子、誕生日、鹿田静七より書籍六部を送来る、
 ○学習院女学部に赴く、○富岡永馬より林檎壱箱を送来る、○文
 科大学々友会より来状、○電車中赤司繁太郎と会見す、○途上、
 Schöderに逢ふ、○石黒成章来る、○東洋協会より雑誌入小包
 を送来る、○ペンキ屋来る、○午后、帝国学士院より来状、○午
 后、校正を印刷所に送ること二回、○夜、孔子誕辰会に学士会事
 務所に赴く、内田周平、吉田静致、小柳司氣太等の講演あり、○
 帝国学士院及び花輪郡藏より来状、○不在中三並良来る、

廿二日、午前、晴天、海野幸勝、辻本卯藏来る、○入澤宗壽より来状、
 ○研究、○印刷所より校正来る、○ペンキ屋来る、○午后、講義
 に大学に赴く、○丁酉倫理会に赴く、○夜、九時頃帰宅、○不在
 中宮坂喆宗来る、○杉山直喜より速記を送来る、○小谷重より書
 状と原稿とを送来る、○木村泰賢より「印度哲学宗教学史」を送来
 る、○雨、

廿三日、午前、曇天、石井鹿之助、三並良、森良三郎、島本愛之助、
 小中村清象来る、○女中松枝を大学に遣はず、○午后、晴天、ペ
 ンキ屋来る、○印刷所より「東亜の光」口絵を送来る、○広文堂
 員及び宮坂喆宗来る、○校正を印刷所に送る、○弘道館より校正
 来る、○石井鹿之助及び松尾圓治より来状、○益之進、靖國神社
 に赴く、○藤井健治郎より松茸菘籠を送来る、○夜、書状を島本
 愛之助及び吉田雪子に送る、○「東亜の光」口絵解題を印刷所に
 送る、○「教界春秋」を草す、○此日、木村政次郎、森村市左衛
 門より来状、

廿四日、午前、晴天、末松謙澄、芝田徹心より来状、○末松謙澄より「矩
 堂詩鈔」及び「雲養集」を送来る、○印刷所より校正来る、○「教
 界春秋」を草す、○金港堂より来状、○書状を金港堂に送る、○
 姉崎宅より鯉節と赤飯とを送来る、○午后、「教界春秋」を印刷
 所に送る、○「戦争と人道」東京毎日新聞に出づ、押田翼妻及び
 浦谷ふみ等来る、○竹内康二、「日本経解総目録」を写来る、○
 書状を白井成允に送る、○運動に大塚方面に出づ、○吉田雪子来
 る、○夜、国民美術協会に青年会館に赴く、岩村透、伊東忠太、
 和田英作等と会見す、○印刷所より校正来る、

廿五日、午前、曇天、林勃爾、広文堂員、中島泰藏、白井成允、花

輪郡藏来る、○縫子、益之進と百花園に赴く、○午后、中島徳藏
 より使者来る、○上宮教会より来状、○校正、○明石壽夫、千葉
 立造来る、○校正を印刷所に送る、○島本愛之助来る、○夜、松
 原一義、菓子菘箱を携来る、○原稿を小谷重に送る、○校正、○
 原稿を酒巻壽子に送る、○校正を印刷所に送る、○「呂氏春秋」
 を読む、○此頃ルーズヴェルト論じて曰く、正義を棄てたる暴力
 は憎むべし。実力を有せずして只正義を叫ぶは愚なり。

廿六日、午前、晴天、校正、○書状を島本愛之助に送る、○校正を
 印刷所に送る、○「呂氏春秋」を読む、○午后、「呂氏春秋」を読む、
 ○山方泰来る、○菊池廣より来状、○書状を桑原隲藏、西田政造、
 富岡永馬、常盤大定、秦政二郎及び東洋協会に送る、○東京印刷
 会社より校正来る、○校正を東京印刷会社に送る、○甲詞を菊池
 廣に送る、○運動に大塚方面に出づ、○阿部維巖より茶を送来る、
 ○校正を印刷所に送る、○不在中野村傳四郎、国民美術協会を代
 表して御礼の為に来る、○夜、書状を芝田徹心及び阿部維巖に送
 る、○校正を印刷所に送る、○「呂氏春秋」を読む、

廿七日、午前、晴天、印刷所より校正来る、○哲学研究室より使者
 来る、○統一基督教弘道会々長安部磯雄より来状、○森良三郎、
 宮崎虎之助来る、○校正を印刷所に送る、○「呂氏春秋」を読む、
 ○藤井健次郎より来状、○書状を統一基督教弘道会に送る、○午
 后、巢鴨植木屋（恩田興三郎）来る、乃ち之に金參拾円を付与す、
 ○「戦争と人道」東京毎日新聞に三日に亘りて連載せらる、○「呂
 氏春秋」を読む、○校正来る、○書状を芝田徹心及び折田彦市に
 送る、○白井成允来る、○書状を竹内康二及び文科大学事務室に
 送る、○運動に飯田橋方面に出づ、○夜、速記を訂正す、○宮坂

詰宗、広文堂員来る、○校正、○校正を印刷所に送る、

廿八日、午前、晴天、学習院に赴く、○一徳会及び柳井幸弘より来状、○国書刊行会より「徳川文芸類聚」及び「日本書画苑」を送る、○校正来る、○書状を一徳会及び宮坂詰宗に送る、○製本屋来る、○校正を印刷所に送る、○午后、三井銀行に赴く、電車中上村邦良、宮城坎一と会見す、○池袋字西山五百参拾七番地宅地式百八拾五坪を買求む、登記済む、売渡人は恩田鍋太郎、代価は金二二八〇円也、○不在中石原即聞、古川勝隆来る、○阿部維巖来る、○校正来る、○広文堂より来状、○夜、校正を印刷所に送る、○現在所有地所の調査をなすに、合計四七五七坪六合六勺也、其買受代価は、金一〇八九九円八拾四銭也、○婦一協会より来状、○竹内康二来る、乃ち之に書籍志冊を付与す、

廿九日、午前、晴天、勉強、○縫子、押田翼宅に赴く、○温度撰氏二十三度、多少有風自南来、○午后、講義に大学に赴く、○曇、○葛野兵次より書状と印刷物とを送来る、○中島力造より「社会德育及教化の研究」を受く、○「呂氏春秋」を読む、○「戦争と人道」中外日報に出づ、○夜、宮坂詰宗、宮本和吉来る、○折田彦市より来状、○「呂氏春秋」を読了る、凡そ拾冊二十六卷なり、○校正、○此日、正勝、遠足に唐沢山に赴く、

三十日、午前、雨天、島本愛之助及び川瀬一郎より来状、○宮崎虎之助来る、○校正、○午后、深作安文、島本愛之助来る、○竹内康二、写物を携来る、○校正、○小谷重より来状、○夜、校正を印刷所に送る、○校正、○興学会より来状、○此日、大清の使者来る、乃ち之に金一三五、〇九を支払ふ、

卅一日、午前、曇天、天長節、武藤儀亮来る、○婦一協会より来状、

○校正、○書状を修養団に送る、○午后、校正、○床屋に赴く、○角田松壽「東亜の光」を携来る、○「東亜の光」(一九の十一)成る、○夜、校正を印刷所に送る、○八、三〇新橋発の汽車に乗る、今泉定介に逢ふ、飯田盛敏及び高橋章臣妻と会見于車中、

十一月

一日、午前、晴天、六、一八名古屋市着、柴田寅三郎来迎す、直に名古屋ホテルに赴く、○眞福寺に赴く、○午后、市会議事堂に赴き「富と徳と寿」に就き、一場の演説をなす、聴衆約三四百人、是れを一徳会秋季大会となす、尋いで一徳会懇親会に一料理店に赴く、○夜、六、二〇名古屋市出発、○一徳会副会長折田彦市、岐阜市長服部正、警察部長丸茂藤平、水谷弓夫(号奥嶺)、大島為足、服部直衡、芝田徹心、大島義脩、神野金之助、中村修、富永勝鋭、市会議長井上茂兵衛、熱田神宮々司岡部讓、駅長飯田義一、岡谷惣助、種野弘道、堀田璋左右、藤塚郷、高女長小林清作、市視学一谷源八郎等と会見す、○留守宅、三嶋復、土屋静藏来る、二日、午前、晴天、六、一五新橋着、○講義に大学に赴く、○広文堂より校正来る、○日清印刷会社より校正来る、○「戦争と人道」新脩養に出づ、○不在中藤井健治郎来る、○婦一協会より来状、○午后、岩橋遵成、笹倉新治、三上義夫、小倉秀道、白井成允来る、○明治火災保険会社員土屋静藏来る、乃ち之に金二九、九〇を支払ふ、○夜、文科大学及び修養団より来状、

三日、午前、晴天、校正を日清印刷に送る、○「淮南子」を読む、○午后、野田義夫来る、乃ち昼餐を出す、○「淮南子」を読む、○宮津栄太郎来る、○校正を日清印刷に送る、○竹内康二来る、乃ち之に「日本道学淵源録」二冊を付与す、○校正、○夜、吾楽

会より来状、○校正を日清印刷に送る、○校正、○「人格と修養」を印刷することを始む、○校正を広文堂に送る、○「実業修身」を訂正す、○此日、大清の使者来る、

四日、午前、晴天、学習院に赴く、○大迫大将と院長室に会談す、

○Frederick LynchよりThrough Europe on the Eve of Warを送来る、○「日本経済叢書」第五巻を送来る、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○尾戸長熊来る、○日清印刷及び広文堂より校正来る、○小野正尊、服部宇之吉の書状を携来る、○夜、校正を日清印刷に送る、○藤井健治郎来る、○書状を服部宇之吉に送る、○此日、大野太衛、古川豊子、孔子祭典会及び藏経書院より来状、○高桑駒吉より亡妻法要に当り御蒸物を送来る、

五日、午前、晴天、温度高く摂氏二十二度に昇る、○目下歐洲に於ける兵力は、協商側は、三百六十萬人、同盟側は三百五十六萬人、内独軍の師団数は、九十三、奥国は四十師団、独軍の兵数は、二百五十萬人、奥軍の兵数は百六萬人、「頁上部に「ウォーターロー會議」、「ケーニヒグラーツ會議」、「サンブバー會議」の兵数が書かれた新聞記事切抜、頁下部に「獨逸は平時に」の新聞記事切抜貼付」○研究、○名畑吉永より書状と短冊とを送来る、○縫子、吉田宅に赴く、○書状を島本愛之助に送る、○日清印刷より校正来る、○午后、講義に大学に赴く、途上中島徳藏妻に逢ふ、○不在中一徳会の使者御札と書状とを送来る、○広文堂員来る、○「淮南子」を読む、○校正を日清印刷に送る、○広文堂より校正来る、○文科大学より円藤鎮をして勲記を齎さしむ、○夜、「淮南子」を読む、○帝国学士院より来状、○校正、○山室軍平より来状、○校正を広文堂に送る、○「実業修身」を訂正す、

六日、午前、晴天、温度高く、摂氏二十一度に昇る、○森良三郎、大清

島本愛之助、尾戸長熊、武藤儀亮、今岡信一良来る、○澁澤栄一及び其他より来状、○金港堂及び名畑吉永より小包来る、○日清印刷より校正来る、○午后、縫子、すみれ会に中島徳藏宅に赴く、○校正、○三島復来る、○校正を日清印刷に送る、○服部宇之吉より来状、○夜、興学会に山上御殿に赴く、○校正、○「淮南子」を読む、○「佐久間象山及門録に就いて」東洋学芸雑誌に出づ、○此日、丸山正彦逝く、享年五十六、

七日、午前、晴天、西田政造及び竹内康二より来状、○広文堂員来る、○「日本仏教全書」を送来る、○縫子、高子を拉して雙葉女学校に赴く、○「淮南子」を読む、○校正を日清印刷に送る、○明治火災保険会社員土屋静藏来る、乃ち之に金拾六円五拾銭を支払ふ、○青島陥落の報あり、○午后、「淮南子」を読む、○角田松壽来る、○研究、○金港堂より小包を送来る、○青島陥落確実となれり、○夜、島本愛之助、宮坂詰宗及び角田松壽来る、○史記の呂不韋伝を読む、○此日、「貞烈美談」を送来る、○丸山正彦の訃報来る、

八日、午前、晴天、友田宜剛より来状、○小谷重、羽生白玄、渡邊源松、中村長外一人来る、○日清印刷より校正来る、○「実業修身」の筆記を訂正す、○午后、書状を帰一協会に送る、○「実業修身」を訂正す、○筑前学友会に富士見楼に赴く、福本誠、寺尾壽等と会见す、○夜、統一基督教会に赴き、「基督教と儒教」を演説す、是れユニテリアン伝道廿五年記念講演会の為なり、○三並良、岸本能武太、安部磯雄、松尾清次郎等と会见す、○松浦一及び藤井健治郎より来状、○博文館より来状、

九日、午前、雨天、講義に大学に赴く、○六盟館員来る、○「実業修身」

を訂正す、○東京帝国大学、女子音楽学校及び漢文学会より来状、
 ○午后、饗節を以て飾れる贈物（価約金拾参四円）を澁澤栄一に
 送る、○「実業修身」を訂正す、○日清印刷より校正来る、○文
 科大学及び哲学談話会より来状、○六盟館より使者来る、乃ち之
 に原稿を付与す、○文部省より試験の答案を送来る、○夜、広文
 堂員来る、○校正、○校正を日清印刷に送る、○「淮南子」天文
 訓を読む、○吉田豊吉より来状、
 十日、午前、晴天、校正、○所得税金三三三、二二、府税市税金
 一二、四四、所得税附加金六、五五、合計五二、二一を郵便局に納む、
 ○広文堂より校正を送来る、○小包を名畑吉永に送返す、○校正
 を日清印刷に送る、○広文堂の校正を見る、○有風、○午后、鈴
 木弘来る、○校正を広文堂に送る、○角田松壽来る、○丸山正彦
 の葬式に青山に赴く、中澤澄男、田中義能、朝比奈知泉等と会见
 す、○夜、哲学談話会に大学に赴く、○帝国学士院、島本愛之助、
 押田清子等より来状、○日清印刷より校正来る、
 十一日、午前、晴天、丸山善彦、大沼新吉より来状、○日清印刷よ
 り校正来る、○堀内尚同来る、○書状を小中村清象に送る、○検
 定試験の答案を読む、○広文堂より校正来る、○大学に赴く、途
 上矢野太郎に逢ふ、○午后、教授会に出席す、○神道青年会より
 来状、○統一基督教弘道会より鈴木文治の書状と御礼とを送来る、
 ○検定試験の答案を読む、○夜、春枝、益之進及び高子を拉して
 日比谷に赴き、尋いで二重橋外に到る、○校正を広文堂に送る、
 十二日、午前、晴天、文部省に赴き、修身科の検定本試験を行ふ、
 ○不在中千葉立造来る、○広文堂より校正来る、○竹内康二、写
 物を携来る、○浅田栄次の計報来る、○「女子修身」二百部、「師

範修身」五拾部、「新編修身」百五拾部の奥附を金港堂に付与す、
 ○夜、伊藤吉之助来る、○此日、富山房より奥附を受取りに来る、
 十三日、午前、晴天、島本愛之助より来状、○広文堂より校正来る、
 ○校正、○文部省の使者、遺失物を携来る、○小谷雅之、角田松
 壽来る、○千代田通信社より通信を送来る、○岩下壯一、小林保
 藏、内藤正廣、等、東亜協会々員となる、○午后、校正を日清印
 刷に送る、○縫子、間端吾宅に送る、○竹歳貞吉より来状、○再
 び校正を日清印刷に送る、○書状を島本愛之助及び白井成允に送
 る、○校正、○夜、博品館に赴く、○「朱子哲学」三十六部の奥
 附を富山房に付与す、○校正を広文堂に送る、○日清印刷所より
 校正来る、
 十四日、午前、晴天、日清印刷より校正来る、○森良三郎、白井成
 允、島本愛之助及び大清の使者来る、○浩々居同人一同より来状、
 ○校正を広文堂に送る、○書状を竹内康二に送る、○広文堂員来
 る、○午后、書状を酒巻壽子及び島本愛之助に送る、○日本美術
 院展覧会に三越に赴く、○堀内尚同及び日本弘道会より来状、○
 竹内康二来る、乃ち之に書籍四冊を付与す、○校正、○夜、校正
 を広文堂に、書状を小中村清象及び島本愛之助に送る、○婦一協
 会より来状、○書状を平塚唯鳩、小林正策、浅田恒彦、轟鎮雄及
 び日本弘道会に送る、○日清印刷及び広文堂より校正来る、○丸
 善より来状、○雨、
 十五日、午前、雨天、伊藤義啓来る、○午后、東亜協会講演大会に
 大学に赴く、豪雨に拘はらず、聴衆満堂、蓋し五六百名ならん、
 非常の盛会なりき、○夜、東亜協会懇親会を山上御殿に開く、来
 会者約三十人、是れ亦盛会なりき、○九時頃帰宅、○広文堂及び

日清印刷より校正来る、○浦谷熊吉より来状、○此日、今岡信一良より来状、○文明協会より「遺伝」及び「現代之教育的運動」を送来る、○此頃、巢鴨地所の為に地租金拾八円二十銭を支払ふ、

十六日、午前、曇天、小林正策より来状、○講義に大学に赴く、○不在中鈴木弘、書状を携来る、○野田義夫より来状、○午后、森良三郎来る、○露帝詔勅を以て「朕は既に永遠に露国内に於ける酒類官營を禁止することに予め決心せり」と云へり、との報あり、○宮坂喆宗来る、○夜、本年の哲学科卒業生の謝恩会に第一学生集会所に赴く、○日本人道会及び東京音楽学校より来状、○此日、縫子、益之進を拉して文展に赴く、○青島入城式を行ふ、○「難経」を読む、

十七日、午前、晴天、蓮沼門三より来状、○校正を日清印刷に送る、○武藤儀亮来る、○一徳会より来状、○校正、○浅倉屋より孫奇逢の「理学宗伝」十二冊を送来る、○電話使用料金、二〇銭を郵便局に納む、○平塚唯鳩より来状、○校正を日清印刷に送る、○午后、校正、○角田松壽及び製本屋来る、○校正を日清印刷に送る、○校正を広文堂に送る、○夜、広文堂より校正来る、○校正を広文堂に送る、○浅田恒彦及び天台道士還暦祝賀会より来状、○「実業修身」を訂正す、○日清印刷より校正来る、

十八日、午前、雨天、学習院に赴く、○丸善より Prayer, History of the Planetary Systems を送来る、○午后、校正を日清印刷に送る、○日清印刷より校正来る、○文展に赴く、○校正、○夜、伊藤吉之助来る、○校正を広文堂に送る、○「実業修身」を訂正す、十九日、午前、晴天、広文堂員、校正を携来る、○日清印刷より校

正来る、○望月信亨より「浄土教之研究」を送来る、○勉強、○Mind (No.92) を送来る、○Haeckel, Weltethos を読む、○穂積陳重より結婚披露の案内状来る、○「大戦争の教訓」二六新聞に出づ、○午后、講義に大学に赴く、○不在中西山栄久来る、○深作安文と共に大学より帰来る、○小谷重及びダーキン会より来状、○夜、校正、○校正を広文堂及び日清印刷に送る、○「淮南子」を読む、

二十日、午前、晴天、広文堂より校正来る、○国書刊行会より「徳川文芸類聚」を送来る、○山本卯一、島本愛之助、西山栄久及び新婦人記者某来る、○小中村清象より来状、○「淮南子」を読む、○米原修養団支部より来状、○午后、引続き「淮南子」を読む、○校正、○日清印刷より校正を送来る、○校正を日清印刷に送る、○帝国学士院より来状、○広文堂より校正来る、○書状を堀内尚同及び一徳会に送る、○再び校正を日清印刷に送る、○夜、婦一協会に上野精養軒に赴く、○東亜協会マニユファクチュラーズ生命保険会社及び花輪郡藏より来状、○日清印刷より校正来る、

廿一日、午前、曇天、八、二〇上野発、一一、二六茨城県下妻着、直に中学校に赴く、○午后、一時「学生、の修養に就きて」一場の講演をなす、聴衆約六百名、○校長大原鏡藏、教諭橋詰孝一郎、及び堀内尚同并に飯島利七等と会見す、○夜、七、〇三上野着、○八、○〇頃帰宅、○不在中小中村清名及び手塚某来る、○日清印刷及び広文堂より校正来る、○文科大学、日本弘道会及び日高驥一郎より来状、○不在中森良三郎来る、○博文館より「国民道徳叢書」及び「武士道叢書」を送来る、○松原一義来る、○教科書会より書類来る、○「実業修身」を訂正す、○西山栄久及び東儀季治よ

り来状、○「淮南子」を読む、

廿二日、午前、晴天、学習院より「乃木院長記念録」を送来る、○飯島忠夫、小谷雅之、角田松壽来る、○日清印刷より校正来る、○「淮南子」を読む、○午后、「淮南子」を読む、○手塚良道来る、○校正、○渡邊善次郎より来状、○校正を日清印刷に送る、○押田三郎夫妻、小児と共に来る、○夜、校正、○小雨、校正を日清印刷に送る、○「実業修身」を訂正す、○押田清子、小児と共に宿泊す、

廿三日、神嘗祭、午前、快晴、坪和為昌の計報来る、○宮本和吉、花輪那藏、小中村清象、尾上八郎、押田三郎、全安子来る、○蜜柑菘箱を浩々居に贈る、○「淮南子」を読む、○午后、「淮南子」を読む、○「実業修身」を訂正す、○竹内康二及び婦一協会より来状、○小谷雅之来る、○校正を広文堂に送る、○書状を小谷重に送る、○益之進、下痢を患ふ、○押田夫妻、横浜に帰る、○夜、竹内康二、写物を携来る、○書状を手塚良道及び島本愛之助に送る、○校正、○「淮南子」を読む、

廿四日、午前、半晴、日清印刷より校正来る、平塚唯鳩より来状、○石川小一郎、東亜協会々員となる、○福井彦次郎の計報来る、○小谷重来る、○水道使用料金六、八一を郵便局に納む、○校正を広文堂に送る、○午后、丸善より来状、○書状を島本愛之助及び丸善に送る、○長谷川福平来る、○校正を広文堂に送る、○田中俊孝来る、○夜、ダーウキン会に山上御殿に赴く、三好学及び渡瀬庄三郎の講演あり、○日清印刷より校正来る、○丸善及び明治火災保険会社より来状、○此日、「教界春秋」を草す、

廿五日、午前、晴天、学習院に赴く、○「国民道徳叢書」を大迫大

将に寄す、○三原道太郎及び武藤儀亮并に山城茂雄より来状、○女中を大学に遣はず、○大学山上御殿に赴く、○不在中白井成允来る、○日清印刷より校正来る、○書状を竹内康二に送る、○校正を日清印刷に送る、○書状を穂積陳重に送る、○堀内尚同より来状、○「戦争と学問の独立」世界新聞に、「独の国家主義」東京毎日新聞に出づ、○教授会に山上御殿に赴く、○蓮沼門三及び菊地廣等より来状、○夜、「教界春秋」を草し了りて之を日清印刷に送る、○竹内康二来る、乃ち之に書籍三冊を付与す、○此日、春枝、微恙に甦る、

廿六日、午前、晴天、広文堂より校正来る、○島本愛之助より来状、○勉強、○日清印刷より「東亜の光」口絵を送来る、○益之進快癒、○縫子、三越に赴く、○午后、講義に大学に赴く、○大島正徳より来状、○男爵吉川重吉を駿河台に訪ふ、○不在中千葉立造来る、○夜、手塚良道より来状、○夜、「東亜の光」口絵解題を日清印刷に送る、○校正、○校正を日清印刷に送る、○「淮南子」を読む、

廿七日、午前、晴天、大日本雄弁会より来状、○池田益吉、大津復活、日野鶴之進、島本愛之助、小中村清名来る、○縫子、三越に赴く、○綿貫哲雄、東亜協会々員となる、○祝儀の贈物を、穂積陳重に送る、○書状を坪和為輝及び福井利吉郎に送る、○日本経済叢書第六冊を送来る、○午后、姉崎袖子、兒玉実徳及び広文堂員来る、○校正、○三島復より来状、○遠藤隆吉より薩摩芋菘俵を送来る、○校正を日清印刷に送る、○丸善に雑誌代金一五、五〇及び書籍代金五、二五合計金二〇、七五を支払ふ、○夜、美学研究会に山上御殿に赴く、○帝国学士院及び島本愛之助より来状、○不在中伊

藤吉之助来る、

廿八日、午前、晴天、広文堂より校正来る、○祝儀の贈物を芳賀矢一に送る、○製本屋来る、○仏国兵の損害、死者十三万人、傷者三十七万人、行方不明者十六万七千人、合計六十六万七千人、○広文堂より校正復た来る、○校正、○校正を広文堂に送る、○午后、広文堂員来る、○金港堂及び修養団等より来状、○春枝快癒、○書状を島本愛之助に送る、○「大戦争の活教訓」下野新聞に出で、「戦争と学問の独立」筑後新聞及び九州日々新聞に出づ、○帝国学士院、帰一協会及び哲学会より来状、○宗教大学校友会に伝通院に赴き、「精神上の国産奨励」を演述す、○不在中宮坂喆宗来る、○深作安文来る、○三越より来状、○夜、深作安文と晚餐を共にす、○興学会より来状、○校正、○此日、菓子壱箱を三原道太郎に送る、○「女子修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、

廿九日、午前、半晴、日清印刷より校正来る、○飯島利七及び坪和為輝より来状、○遠藤隆吉、中澤權藏、松原一義来る、○富士見軒に赴き、昼餐をなす、○午后、二松学舎に赴き、「王陽明の人物性行及び学問」を演述す、此日、陽明の歿日に当るが故なり、○夜、哲学会に山上御殿に赴く、○勉強、○日清印刷より校正来る、

三十日、午前、晴天、書状を帝国学士院に送る、○講義に大学に赴く、○不在中森良三郎来る、○三島復、菓子壱箱と中洲文稿とを携来る、○三越及び郵便局より来状、○広文堂員、校正を携来る、○姉崎袖子、全益子来る、○午后、須藤新吉、小倉秀道来る、○宗教大学校友会より御礼を送来る、○校正、○小松琛見より来状、○夜、校正、○此日、植木屋来る、

十二月

一日、午前、晴天、山中隣之助より来状、○日清印刷より校正来る、○竹内康二、写物を携来る、○校正を日清印刷に送る、○午后、校正を日清印刷に送る、○縫子、姉崎宅に赴く、○広文堂員、校正を携来る、乃ち之に写真五枚を付与す、○再び校正を日清印刷に送る、○夜、穂積芳賀両家結婚披露の宴に帝国ホテルに赴く、高木兼寛、中川謙二郎、阪谷芳郎、寛克彦等と会談す、○吉田雪子来る、○大槻文彦より「磐水存響」二冊を送来る、○不在中宮坂喆宗来る、○此日植木屋来る、

二日、午前、晴天、学習院に赴き、尋いで女学部に赴く、○帰途三井銀行に赴く、○電車中福井利吉郎及び深作安文に逢ふ、○不在中鈴木弘来る、○午后、鈴木弘、柏原文太郎来る、○姉崎袖子及び全益子来る、乃ち之に金壱千五百円を貸附す、○校正を広文堂に送る、○帝国教育会より来状、○夜、杉山直喜及び宮坂喆宗来る、○在米国志賀重昂及び哲学会より来状、○此日、鶴原定吉逝く、享年五十九、

三日、午前、晴天、日清印刷より校正来る、○勉強、○角田松壽「東亜の光」(九の十二)を携来る、○「仏基、二教と神道」東亜の光に出づ、○宮坂喆宗来る、○午后、講義に大学に赴く、○姉崎益子、借用證書を携来る、○人類学会及び其他より来状、○「日本大蔵経」第二帙を送来る、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○小谷重、辻本卯藏等より来状、○校正、○「淮南子」を読む、

四日、午前、晴天、白井成允、松本虎雄、櫛引成太、島本愛之助来る、○校正を日清印刷に送る、○校正、○島本愛之助再びKunstler-Monographien 十二冊及びNewnes' Art Library 四冊を携来る、○午后、曇天、日清印刷より校正来る、○帰一協会及び東京切抜

通信社より来状、○校正、○広文堂員来る、○校正を広文堂に、書状を帝国学士院に送る、○竹内康二、写物を携来る、○運動に小日向方面に出づ、○夜、広文堂より校正来る、○杉山直記より速記を送来る、○原稿を金港堂に送る、○帰一協会の速記を訂正す、○「淮南子」を読む、

五日、午前、晴天、杉山直喜、速記と書状とを携来る、○森良三郎来る、○大学史料編纂掛に赴き、仁和寺所蔵の「大素経」を検閲す、三浦謹之助亦来る、○「素問靈枢」を読む、○縫子、三越に赴く、○婚礼の祝物を山中隣之助に送る、○午后、「素問靈枢」を読む、○書状を山中隣之助に送る、○速記を訂正す、○関恒二より来状、○「基督教と儒教」基督教新聞に出づ、○校正、○原稿を帰一協会に送る、○「淮南子」を読む、○「実業修身」を訂正す、○夜、校正を広文堂に送る、○帝国学士院、日蓮門下交渉事務所及び加藤玄智等より来状、○「実業修身」を訂正す、○此頃、在米国朝河貫一より The Origin of the Feudal Land Tenure in Japan を送来る、

六日、午前、雨天、日清印刷より校正来る、○得能文、藤井甚太郎来る、○速記を訂正す、○帰一協会より来状、○午后、広文堂員、校正を携来る、○「淮南子」を読む、○速記を訂正す、○縫子、買物に三越に赴く、○松原一義来る、○大野太衛より来状、○夜「実業修身」を訂正す、○「淮南子」を読む、

七日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○不在中櫛引成太来る、○島本愛之助来る、○「淮南子」を読む、○午后、小谷重、田尻直及び広文堂員来る、○姉崎益子より鯛巻尾を送来る、○校正を日清印刷に送る、○手塚良道、白井成允及び実業の日本社員加藤某

来る、○校正、○角田松壽来る、○校正を日清印刷に送る、○書状を竹内康二に送る、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○伊藤吉之助来る、○「淮南子」を読む、○国民新聞社及び他より来状、○此日、「師範修身」三百部の奥附を晚成処に付与す、

八日、午前、晴天、広文堂より校正来る、○櫛引成太来る、○校正、○広文堂員来る、○校正を広文堂に送る、○「淮南子」を読む、○午后、竹内康二来る、乃ち書籍二冊を付与す、○日本学会の案内書拾通を発送す、○修養団員松本虎雄来る、乃ち談話を筆記せしむ、○日清印刷より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○書状を三島復及び大槻文彦に送る、○帝国学士院より来状、○書状を美学研究室に送る、○運動に白山方面に出づ、○三好学より「メデルと其遺伝」を送来る、○在奈良酒巻壽子より来状、○夜、速記者来る、乃ち談話を速記せしむ、弘道館の為なり、○校正を日清印刷に送る、○近火あり、○「淮南子」を読む、

九日、午前、晴天、学習院に赴く、○松本虎雄より筆記と書状を送来る、○The Ethical World を送来る、○内ヶ崎作三郎父作太郎の計報来る、○廣江恭堂来る、○杉山直喜より速記を送来る、○校正、○校正を日清印刷に送る、○「淮南子」を読む、○午后、校正、○松信定雄来る、○校正を日清印刷に送る、○本多日生来る、○夜、日本学会に山上御殿に赴く、○小中村清名及び日本人道会より来状、○日清印刷より「東亜の光」口絵を送来る、

十日、午前、晴天、日清印刷より校正来る、○辻本卯藏及び森良三郎来る、○勉強、○午后、広文堂員、原稿を携来る、○講義に大学に赴く、○山田三郎、服部宇之吉来談于大学、○「国民の性情と詩歌」若竹に出づ、○夜、小山鞆繪、伊藤吉之助来る、○中島

利一郎及び文科大学々友会より来状、○「東亜の光」口絵解題を日清印刷に送る、○校正、○「淮南子」を読む、○此日、「学生宝鑑」壹百部の奥附を大倉書店に付与す、

十一日、午前、曇天、古典研究会及び其他より来状、○廣江恭堂来る、乃ち之に「衛生と修養」を付与す、○九鬼周造、島本愛之助、佐々木喜市、森良三郎来る、○増田惟茂「動物心理学」を携来る、○修養団員松本虎雄来る、乃ち之に原稿を付与す、○校正を広文堂に送る、○「淮南子」を読む、○午后、帝国学士院委員会に大山上御殿に赴く、○日清印刷より校正来る、○校正を広文堂に送る、○帰一協会より来状、○不在中鈴木弘来る、○黒木安雄来る、○夜、書状を帝国学士院及び帰一協会に送る、○原稿を島本愛之助に送る、○黒田侯の詩稿を閲読す、

十二日、午前、晴天、弘道館の速記を訂正す、○広文堂員来る、乃ち之に校正を付与す、○金港堂より奥附壹包を送来る、○女中を文部省に遣はす、○澁澤栄一より鯉節と鶴の子とを送来る、○書状を杉山直喜に送る、○東亜協会及び日蓮門下教団統合事務所より来状、○花田頓成の訃報来る、○午后、原稿を弘道館の使者に付与す、○「淮南子」を読む、○妻と共に山中隣之助男小島勇之助の結婚披露会に築地精養軒に赴く、○夜、九時頃帰来る、○「淮南子」を読む、○此日林勃爾来る、○「新編終身」二千部の奥附を金港堂に付与す、

十三日、午前、晴天、森良三郎、大沼新吉来る、○杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○岩橋遵成来る、○「淮南子」を読む、○午后、書状を疏安会社に、校正を日清印刷に送る、○井上波野来る、○日蓮宗統合後援会に明治大学に赴き、「日蓮宗に望む」

を演説す、○矢野茂、山田三郎、高島平三郎、佐藤鐵太郎等と明治大学に会见す、○夜、庵谷盛太郎より「米穀官営論」を送来る、○菊池廣より来状、○広文堂より校正来る、○校正を広文堂及び日新印刷に送る、○此日、丸善より洋酒三罎を送来る、

十四日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○不在中西山栄久来る、○「淮南子」を読む、○午后、西山栄久、森山經綸及び製本屋来る、○校正、○縫子、春枝及び高子を拉して買物に外出す、○文科大学より来状、○夜、吉田熊次、全雪子と共に来る、○日清印刷より校正来る、○校正を広文堂及び日清印刷に送る、○「淮南子」を読む、○此日、宗宮信行来る、

十五日、午前、晴天、校正に従事す、○校正を広文堂に送る、○磯江潤より鯉節を送来る、○国書刊行会より「徳川文芸類聚」(第十二)及び「言継卿記」(第三)を送来る、○書状を島本愛之助に送る、○帰一協会より来状、○杉山直喜より速記を送来る、○午后、製本屋及び広文堂員来る、○校正を広文堂に送る、○「東亜の光」の原稿を訂正す、○夜、校正、○原稿を島本愛之助に送る、○島本愛之助より来状、○在倫敦補永茂助より来状、

十六日、午前、晴天、学習院に赴く、○山崎亀太郎来る、○松浦伯爵より「時局收拾管見」を送来る、○群馬県内務部長横田郷助より来状、○校正を広文堂に送る、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○加藤駒二よりビール壺打の證券を送来る、○夜、哲学会に山上御殿に赴く、○不在中縫子、誤りて額に負傷す、○宮坂喆宗来る、○井上成美来診す、○蓮沼門三及び榎本勝多等より来状、○竹内康二、写物を携来る、

十七日、午前、半晴、日清印刷より校正来る、○田丸卓郎より来状、

○勉強、○宮坂詰宗来る、○日清印刷より不用原稿を送来る、○岩橋遵成より蜜柑志箱を送来る、○J. T. Swiftより来状、○午后、講義に大学に赴く、○夜、神道談話会に山上御殿に赴く、○山崎亀太郎より来状、○不在中竹内康二来る、

十八日、午前、晴天、「教界春秋」を草す、○為換入の書状を鹿田静七に送る、○金壺円を天台道士還暦祝賀会に送る、○岩橋遵成来る、○学習院女学部より御札を送来る、○広文堂員来る、○女中澄江を学習院に遣はす、○山本犀藏、矢野茂、島本愛之助来る、○新潟新聞社より来状、○午后、「教界春秋」を草し、之を日清印刷に送る、○Pfarrer Jakob Hunziker (Missionar) 及び赤司繁太郎来る、○中央新聞記者来る、有故不遇、○夜、岩倉鉄道学校に赴き、一場の講演をなす、○子爵曾我祐準と会見す、○帝国学士院より来状、○三島復より「論学三百絶」を送来る、○此日、神尾中将凱旋、

十九日、午前、晴天、徳川頼倫、辻本卯藏及び山口龍藏より来状、○乙竹岩造より「現代教育教授思潮」を送来る、○校正、○大澤定吉来る、○午后、岩倉鉄道学校に赴き、一場の講演をなす、○文明協会より砂糖を送来る、○姉崎益子、小児を携来る、○高橋里美来る、○校正、○夜、校正を日清印刷に送る、○書状を三島復及び白井成允に送る、○書状を島〔本〕愛之助に送る、○校正、○玉井廣平より来状、○此日、丸善よりBrennand, Hindu Astronomyを送来る、

二十日、午前、晴天、島本愛之助より来状、○波多野精一、白井成允、伊藤吉之助、森良三郎、三上義夫、大壁早治来る、○校正、○日本弘道会より来状、○午后、校正、○岩橋遵成、原稿を携来

る、○校正を日清印刷に送る、○書状を島本愛之助、玉井廣平及び日本弘道会に送る、○森田守太郎来る、○鈴木貞太郎より鴨二羽を送来る、○大日本雄弁会より来状、○夜、校正、○書状を山本犀藏に送る、○「淮南子」を読む、○川島平五郎及び鹿田静七より来状、○日清印刷より校正来る、

廿一日、午前、晴天、校正、○広文堂員来る、乃ち之に校正を付与す、○日本経済叢書刊行所より卓上備忘録を、法貴慶次郎よりハシケチ志打を送来る、○島本愛之助より来状、○益之進、微恙に限り、臥摩す、○午后、土田誠一来る、○黒田侯爵邸より御札を送来る、○名畑吉永より来状、○角田松壽、川上淳一郎来る、○校正、○武岡充忠より来状、○校正を日清印刷に送る、○吉田宅に赴く、○帝国学士院より来状、○夜、鶴澤総明及び其他より来状、○校正を日清印刷に送る、○「淮南子」を読む、○東京ホテルより来状、

廿二日、午前、晴天、東京社より袱紗を、文部省より年報を送来る、○反物入の小包を御殿場別荘の番人に送る、○マニユファクチュラス生命保険会社に保険料金四百〇四円を支払ふ、○日清印刷より校正来る、○吉田雪子、鶏卵志箱を携来る、○買物に東明館に赴く、○午后、「新編修身」四百部の奥附を金港堂に付与す、○深作安文、島本愛之助来る、乃ち幹部会を開く、○服部宇之吉より来状、○電報を山本犀藏に送る、○豊国屋に晚餐す、○雨、○夜、七、二〇上野出発、一〇、四〇前橋市着、師範学校長保田銓次郎、高等女学校長杉原九郎、県視学高橋朝治、全柳井松次郎、県属植田好藏、野中富三郎、全狩野虎千代来迎す、○本町白井旅館に投ず、山本犀藏外四人来る、

廿三日、冬至、午前、晴天、赤城山、榛名山等皆白し、○県会議事堂に赴き、県講習会に莅み、「国民道徳と時局と関係」を講図、○三宅知事、内務部長横田郷助、柴山槐郎、杉原九郎等と会見す、「上部欄外に「○書状を留守宅に送る」と書き込みあり、どこに入るかが示されていない」○午后、高等女学校に赴き、昼餐をなし、了りて生徒一同に対し、一場の講演をなす、○有風、○杉原九郎、御礼の為に來る、○留守宅より郵便物來る、○夜、柳井松次郎來る、○校正、

廿四日、午前、晴天、校正、○講習会に赴き、「国体と武士道及び武士学派」を講述す、○横田郷助、保田銓次郎、松本喜一等と会見す、○午后、校正を日清印刷に送る、○留守宅より郵便物來る、○夜、野中富三郎來る、○書状を留守宅及び日清印刷に送る、○間違にて送來れる他人の校正を日清印刷に送返す、○校正、○校正を日清印刷に送る、

廿五日、クリスマス、午前、晴天、講習会に赴き、「国民道徳と神儒二教との関係」を講述す、○午后、校正、○校正を日清印刷に送る、○藤本女子師範学校長來る、乃ち共に赤城館に赴く、有志十三名に晚餐に招かれたるが為なり、○夜、土方ゆく、菓子壺箱を携來る、○高橋朝治來る、○此日、衆議院解散せらる、

廿六日、午前、曇天、講習会に赴き、「修身科授業上の注意」に就いて講述す、講習員約二百四十人、○雨、○午后、一二、五四出發、全四、四五上野着、○五時過帰宅、○夜、広文堂員、校正を携來る、○文部省、森信一二及び金港堂より來状、○日清印刷より校正來る、

不在中の來訪者は、毎夕新聞の記者、齋藤基次郎、吉田静致妻、

甫守謹吾、田中義能、宮坂詰宗、角田松壽、飯島利七等、○到來物は、満洲の白菜及び菓子(齋藤基次郎)、野菜(向かひの桐原)、写真及び珍菓物(横浜の押田)、煉杏(飯沼松枝)、鯛煎餅壺箱(吉田静致妻)、鯉節料及び鶴の子餅壺箱(山中隣之助)、砂糖壺箱(目黒書店)、菓子箱(前女中千代)、菓子一箱及び書籍二冊(甫守謹吾)、真綿(岩田僊太郎)漬物壺箱(成美堂)、ビール半打(富山房)、砂糖壺箱(田中義能)、書翰箋壺箱(前川文栄閣)、文房具(同文館)、書翰箋壺箱(隆文館)、砂糖(片山清太郎)、菓子壺箱(弘道館)骨牌及びネクタイ(吉田熊次)、砂糖(目黒甚七)、全(文明協会)等、○來状は山本達之輔、小中村清名、峯間信吉、大塚弘直、飯沼松枝、手塚良道、杉浦重剛、穂積陳重、小谷重、田中知邦及び丸善、学習院等より、

廿七日、午前、晴天、岩橋遵成、山岸光宣來る、○校正を日清印刷に送る、○浦谷熊吉及び田崎惣太郎より來状、○午后、女中澄江を東海銀行に遣はす、○伊澤修二よりビール半打と半襟を送來る、○根本通德來る、乃ち之に「縮臨論語」を付与す、○大橋秀治來る、○書状を宗宮信行に送る、○校正を日清印刷に送る、○校正、○飯島利七、松原一義、石川文藏來る、○島地大等、「訳文法華經」を携來る、○製本屋來る、○今福忍より來状、○「基督教と儒教」中外日報に連載せらる、○書状を富山房に送る、○書状を峯間信吉に送る、○井上道喜より縫子に來状、○夜、日清印刷より「東亜の光」(十の一)拾冊を送來る、○「余の接したる学界の偉人」東亜の光に出づ、○校正を広文堂に送る、○野田義夫より牛肉を送來る、○校正、○「淮南子」を読む、

廿八日、午前、晴天、若木貞一、森良三郎、伊藤吉之助来る、○女中澄江を文部省及び日本銀行に遣はす、○秋月胤継及び山口龍藏より来状、○六盟館よりハンケチ打を、今福忍よりカステイラ壺箱を送来る、○製本屋及び渡辺源松来る、○「師範修身」一千四百部の奥附を晩成処に付与す、○歳暮の贈物を甘木、中洲に送る、○春枝、博品館に赴く、○午后、栗林宇一來る、○贈物を博多川端、田中次郎、押田三郎、齋藤儀八に送る、○吉田豊吉より来状、○紀井正美より鴨二羽を、井上成美よりビール半打とシヤツ壺枚とを送来る、○正勝を東海銀行に遣はす、○加藤玄智、菓子壺箱を携来る、○校正、○村松喜太郎の家屋を買取ることに決し、之を弁護士鵜澤総明に告ぐ、○宣光徴兵適齡に付、召集せらる、○博文館よりビール半打を、大倉書店よりビール壺打を送来る、○校正を広文堂に送る、○贈物を吉田熊次に送る、○砂糖壺樽を田中義能に送る、○夜、「淮南子」を読了る、○校正を日清印刷に送る、○序文を岩橋遵成に送る、○「晏子春秋」を読む、○野田義夫、大野太衛、小川喜代藏、折田彦市より来状、

廿九日、午前、晴天、島本愛之助及び Asiatic Society of Japan より来状、○白井成允、「日本道学淵源録」を携来る、○「晏子春秋」を読む、○校正、○贈物を加藤玄智に送る、○文成社より砂糖壺箱を、尾上八郎より菓物壺箱を送来る、○浅倉屋より菓子壺箱を送来る、○書状を島本愛之助に送る、○午后、弘道会よりハンケチ打を、文学社より菓子盆壺箱を送来る、○中村久四郎、大和田眞彦、太田稠夫、及び製本屋来る、○姉崎袖子、砂糖を携来る、○松浦一より蜜柑壺箱を送来る、○校正、○校正を日清印刷及び広文堂に送る、○「晏子春秋」を読む、○夜、島本愛之助より葡

萄酒半打を送来る、○竹内康二来る、乃ち之に書籍二冊を付与す、○日清印刷より校正来る、○小林文七、加藤玄智、小野清秀、杉山直喜及び文科大学より来状、○校正を日清印刷に送る、○「晏子春秋」を読む、○再び校正を日清印刷に送る、○「東亜協会々員名簿」成る、会員の数、合計八百七十五人、○此頃井上健兒より鯛を送来る、

三十日、午前、晴天、書状を岩田僊太郎及び黒川眞道に送る、○正勝を拉して三菱銀行に赴き、尋いで三井銀行に到り、帰途多賀羅亭に昼餐して還る、○黒木安雄より吟箋三箱を、田中次郎より鯛の花と菓子とを送来る、○林平次郎よりビール半打を送来る、○「独逸の活教訓」讃岐日々新聞に出づ、○魚煎餅壺箱を深作安文に送る、○午后、笹川貞子より砂糖漬を送来る、○為換入の書状を文会堂書店に送る、○縫子、贈物を携へて井上成美宅に赴く、○東山の番人より野菜壺箱を、上野精養軒より風呂敷を送来る、○「晏子春秋」を読む、○「大戦争の教訓」新天地に出で、「時局」対する教育者の覚悟」小学研究に出づ、○夜、三省堂より海苔を送来る、○大山由朗より来状、○「晏子春秋」を読む、○蠣瀬彦藏よりシヤツを送来る、○広文堂より校正来る、

卅一日、午前、晴天、田中次郎より来状、○金港堂より印税を送来る、○黒川眞道、浦谷熊吉、大橋秀治、葉山萬次郎来る、○贈物を姉崎宅、島本愛之助及び角田松壽に送る、○島地雷夢、木戸春太郎、東亜協会々員となる、○森良三郎来る、○「精神上の国産奨励」警世に出づ、○小谷重来る、○友枝高彦より大鯛壺尾を送来る、○午后、吉田修夫より砂糖壺箱を、吉田豊吉より大鴨二羽を送来る、○大鴨二羽を三浦謹之助に送る、○菓子を向二軒に送る、

○古市冲野両博士還暦記念資金として金貳円を送る、○深作安文より来状、○校正、○「晏子春秋」を読む、○製本屋来る、○茲に歳末に際し、過去一年間の事を回顧するに、購入書籍百拾四部(二百二拾九冊)、寄贈書籍百参拾部(百八十七冊)、合計二百四拾四部(四百拾六冊)○検印書籍は総計六萬〇二百二拾壹部、

(むらかみ こずえ 東京大学文書館)

(もりもと さちこ 東京大学文書館)